

厚生労働科学研究費補助金

障害者対策総合研究事業

障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）

相談支援従事者研修の
プログラム開発と評価に関する研究

H28-身体・知的-一般004

平成29年度 総括研究報告書

研究代表者 小澤 温

平成 30 (2018) 年 3 月

目次

・ 厚生労働科学研究費補助金総括研究報告	
相談支援従事者研修のプログラム開発と評価に関する研究	
研究代表者：小澤 温	
分担研究者：島村 聡	
沖倉 智美	
高野 龍昭	
森地 徹	
大村 美保	
（資料1）初任者研修（モデル研修）の検討と整理	
資料1-1 モデル研修実施経過	
研究協力者：藤川 雄一	
資料1-2 モデル研修参加者における事前・事後評価	
分担研究者：大村 美保	
資料1-3 モデル研修参加者・インタビュー調査結果・考察	
分担研究者：森地 徹	
資料1-4 モデル研修の振り返りおよび考察	
研究協力者：藤川 雄一	
（資料2）現任研修（モデル研修）の検討と整理	
資料2-1 モデル研修実施経過	
研究協力者：富岡 貴生	
資料2-2 モデル研修参加者における事前・事後評価	
分担研究者：大村 美保	
資料2-3 モデル研修参加者・インタビュー調査結果・考察	
分担研究者：大村 美保	
資料2-4 モデル研修の振り返りおよび考察	
研究協力者：富岡 貴生	
・ 研究成果の刊行に関する一覧表	
・ 研究会議の開催状況	

相談支援従事者研修のプログラム開発と評価に関する研究

研究代表者 小澤 温 筑波大学人間系教授

研究要旨

本研究では、社会保障審議会・障害者部会の報告書(2015年)の相談支援の見直しに関する指摘をもとに次の4点の研究目的を設定した。相談支援専門員研修のカリキュラム、プログラム、教材と教育方法の分析と開発、主任相談支援専門員に求められているコンピテンシー(専門的能力)の解明、相談支援専門員と介護支援専門員の視点をふまえた研修のあり方の分析、～で明らかにされた内容を含んだ研修のモデル実施と全国的な研修への普遍化の検討。このうち29年度は、～の目的のもとに研究を行った。主任相談支援専門員のコンピテンシーの構成要素を整理し、モデル初任研修、モデル現任研修のカリキュラム案にそって、各科目の教材と教育方法を検討した。モデル初任研修に関しては、相談支援専門員18名に対して講義部分を除いた演習部分を4回にわたって実施した。モデル現任研修に関しては、同様に、相談支援専門員18名に対して講義部分と演習部分を4回にわたって実施した。いずれのモデル研修参加者の初期の理解水準の高さもあり、研修の教育効果に関してはさらなる検討が必要である。研修内容に関してはモデル研修参加者から概ね高い評価を得ることができた。

分担研究者：

島村 聡 沖縄大学人文学部 准教授
沖倉 智美 大正大学人間学部 教授
高野 龍昭 東洋大学ライフデザイン学部
准教授
森地 徹 筑波大学人間系 助教
大村 美保 筑波大学人間系 助教

研究協力者

藤川 雄一 埼玉県障害者相談支援専門員協
会 代表
富岡 貴生 かながわ障がいケアマネジメント従事者
ネットワーク 代表
鈴木 智敦 名古屋市総合リハビリテーション
部長

員の制度化、意思決定支援ガイドラインを活用した相談支援専門員研修の実施とカリキュラムの見直し、相談支援専門員と介護支援専門員の連携の推進と両者の視点をふまえた研修のあり方、の4点の提案がなされた。この提案の具体化とその実現を図ることは障害者総合支援法を円滑に進める上で喫緊の課題である。

本研究では、社会保障審議会・障害者部会の報告書(2015年)の相談支援の見直しに関する指摘をもとに次の4点の研究目的を設定した。相談支援専門員研修のカリキュラム、プログラム、教材と教育方法の分析と開発、主任相談支援専門員に求められているコンピテンシー(専門的能力)の解明、相談支援専門員と介護支援専門員の視点をふまえた研修のあり方の分析、～で明らかにされた内容を含んだ研修のモデル実施と全国的な研修への普遍化の検討。28年度は、主に、～の目的のもとに研究を行い、29年度は、～の目的のもとに研究を行った。

A. 研究目的

障害者総合支援法施行3年後の見直しについての社会保障審議会・障害者部会の報告書(平成27年12月)が公表された。そこでは、計画相談支援の質の向上に向けての研修制度の見直し、計画相談支援に関わる相談支援専門員への指導的な役割を担う主任相談支援専門

B. 研究方法

29年度は、28年度に得られた知見をもとに、次の4点の研究を推進した。

- 1)収集した教材・資料の整理から主任相談支援専門員のコンピテンシーの構成要素の解明
- 2)相談支援専門員向けの教材・教育方法につい

での検討

3)モデル研修では、経験のある相談支援専門員にモデル研修への参加を依頼し、各研修 20 名程度に対して検討したプログラム案による研修の実施

4)教材・教育方法の妥当性、研修の効果を面接調査・質問紙調査による説明

(倫理面への配慮)

倫理的配慮が必要な調査研究に関しては、研究代表者(小澤 温)の所属する筑波大学において、人間系研究倫理審査委員会・東京地区委員会に調査研究実施の申請を行い、承認された(2017年8月4日、東29-29号)

C. 研究結果

(1)主任相談支援専門員のコンピテンシーの構成要素

本研究では、相談支援専門員の熟達化過程から、現任研修で育成する相談支援よりさらに経験を積んだ、地域の相談支援体制の中核となる相談支援専門員のカリキュラムを開発した。

具体的には、人材育成、協議会(地域援助技術) 運営・管理の内容について、受講生自らの実践を報告する内容を含む演習が主眼となる内容となった。

以上、これまでの文献・資料の整理から、相談支援専門員に対してのスーパービジョン、チームアプローチの際のコーディネーター役割、都道府県における相談支援従事者研修(初任研修、現任研修)の指導スキルに整理することができた。

(2)相談支援専門員向けの研修カリキュラム案と教材の開発

1)初任研修の研修カリキュラム案と教材開発

初任研修における科目と教材は以下の通りである。事前学習課題(障害特性など) 研修受講ガイダンス説明用資料、相談支援概論、障害者総合支援法、児童福祉法の理念、サービス、障害者総合支援法、児童福祉法の相談支援の基本、相談支援におけるケアマネジメント技法、相談支援における地域への視点、演習で用いたモデル事例。

従来の初任者研修では、ケアマネジメントツールや演習に活用する様式については明確に示されておらず、実質的にケアガイドラインに示された様式とサービス等利用計画の厚生労

働省の参考様式を活用することが通例であった。

本研究では、詳細な研修方法を示すことをコンセプトとしたため、プログラム例や様式例を改めて開発することとした。その際の視点は以下のとおりである。

演習プログラムについて

演習の展開については詳細を記したプログラム案(進行表)の例を提案することとした。演習用教材についても、教材例を提案することとしているが、モデル研修では、簡易的に研修の視点を入れた教材を使用した

ケアマネジメントおよび演習様式について

サービス等利用計画作成事務に係る様式については、厚生労働省の示す参考様式が全国的に普及しており、この様式を実務上使ってゆくことが標準と想定されることから、既存の様式を活用することとした。

アセスメント様式について

ケアガイドラインに示された項目を標準として使っている都道府県が多いが、現行様式は医学モデルに視点が偏りがちなきらいがあるなど、課題があることから、この様式を改訂することとした。

以下の様式については、今回新たに提案することとした。

- ・ストレングスの整理票
- ・ニーズ整理票
- ・社会資源活用シート

2)現任研修の研修カリキュラム案と教材開発

現任研修における科目と教材は以下の通りである。障害者(児)福祉に関わる制度解説、地域を基盤としてのソーシャルワーク、個別相談支援(意思決定支援を含む) チームアプローチ、スーパービジョン、個別相談支援演習、チームアプローチ演習、コミュニティワーク演習、演習で用いたモデル事例。

研修受講ガイダンスは、現任研修における獲得目標や研修の内容を理解して受講してもらうことが目的である。現任研修では、初任者研修の振り返り並びに地域を基盤としたソーシャルワークの実践が行える人材育成のため4日間で実施される。ここでは、1日目に地域を基盤としたソーシャルワークを理解するため、講義を中心としたものから、2日目以降は個別相談支援、チームアプローチ(多職種連携)、コミュニティワークについての演習を中心に

研修を行う

1日目は講義が中心、1日目以降は演習が中心となっている。

2日目の個別相談支援は、最初に研修のガイダンスを行い、2日目の獲得目標や内容等の説明を行う。講義は1日目の内容をもとに、事例を通して相談支援のプロセスや意思決定支援、チェックリストの記入の仕方の講義を行う。演習は、ここでの講義を踏まえ、事前課題(書式1)の報告及び検討、インターバル期間中に行う課題の整理・抽出したものをファシリテーターから助言を得る。最後に自己業務の振り返りとしてセルフチェックを記入する。1日目終了後、1ヶ月程度インターバル期間とし、演習で整理された課題を基幹相談支援センター等での協議を踏まえ実施してくる。

3日目のチームアプローチ(多職種連携)は、最初に研修ガイダンスを行い、3日目の獲得目標や内容等の説明を行う。講義は1日目の内容をもとに、事例を通して担当者会議の開催やチームアプローチ(多職種連携)の際の支援目的の共有、チェックリストの記入の仕方等の講義を行う。演習では、インターバル時の実践報告をした後に講義を踏まえて事前課題の検討を行い、次のインターバル期間中に行う内容を整理、最後に自己業務の振り返りとしてチェックシートの記入と共有、4日目に使用する代表事例を選出する。3日目終了後、1ヶ月程度インターバル期間とし、演習で整理された相談支援体制や自立支援協議会の状況を基幹相談支援センター等で確認してくる。

4日目のコミュニティワークは、最初に研修ガイダンスを行い、4日目の研修の獲得目標や内容等の説明を行う。講義は1日目の内容をもとに、事例を通して地域のつながりや地域資源の活用、自立支援協議会の機能、ヒアリングシートの再記入等の講義を行う。演習では、ここでの講義を踏まえ、代表事例に対して地域資源を活用する等の検討、その後共通事例に対して模擬グループスーパービジョンを行い、地域とのつながりを意識した支援やグループスーパービジョンの必要性等について体験する。最後に事前課題として作成してきたヒアリングシートに対して演習で学んだことも踏まえて再チェックし、地域支援の際に必要な視点や主任相談支援専門員の役割等について考える。

(3)モデル初任研修の効果と内容に関する評価

埼玉県、神奈川県の経験のある相談支援専門員18名に対して、講義部分を除いた演習部分に対して、4回にわたって、モデル研修を実施した。毎回、演習内容の理解度に関わる事前評価と事後評価及び内容及び資料等についての評価を4件法で行った。演習終了後は、モデル研修参加者に対して、その回の演習内容にそって、評価すべき点、改善すべき点についてグループインタビューを実施し、モデル研修の内容を検討した。

研修の効果を判断するため行った受講前後の到達度評価では、受講前は平均3.22~3.53ポイントで、受講後は平均0.09~0.28ポイント上昇した。t検定ではいずれも研修の前後の平均値に有意差はなかった。教材・教育方法の妥当性を検討するため行った評価では、「内容」は平均2.7~3.2、「資料等」は平均2.6~3.1で、各日ごとの評価得点の平均値に有意差は検出されなかった。

(4)モデル現任研修の効果と内容に関する評価

埼玉県、神奈川県の経験のある相談支援専門員18名に対して、作成したカリキュラムにそって講義部分と演習部分に対して、4回にわたりモデル研修を実施し、モデル初任研修と同様に評価とグループインタビューを実施した。

研修の効果を判断するため行った受講前後の到達度評価では、受講前は平均3.00~4.00で、受講後は平均-0.36~0.36ポイント変化した。t検定ではいずれも研修の前後の平均値に有意差はなかった。教材・教育方法の妥当性を検討するため行った評価では、「内容」は平均2.8~3.4、「資料等」は平均2.8~3.5で、「内容」「資料等」について評価得点の平均値に有意差が検出されたのは、2日目「個別相談支援」の「資料等」のみであった。

D. 考察

(1)主任相談支援専門員のコンピテンシーの構成要素

本研究では、相談支援専門員の熟達化過程から、現任研修で育成する相談支援よりさらに経験を積んだ、地域の相談支援体制の中核となる相談支援専門員のカリキュラムを開発した。このことに関して、今後は、基幹相談支援センターの役割や実際の運用における主任相談支援専門員の役割や業務内容を再度整理し、その業務遂行に必要なコンピテンシーの見直しやそ

れに伴うカリキュラムの改訂が必要になると考えられる。

主任相談支援専門員のあり方に関して、介護保険制度における主任介護支援専門員のこれまでの研修の内容を整理した。

その結果、主任介護支援専門員は、介護支援専門員のスキル不足に対するスーパービジョンや介護保険制度で求められる医療介護連携・地域連携を促進する者として期待されて誕生し、その要件が厳格化（研修のボリュームの増大、更新制、研修の修了時評価など）されるとともに、その活躍の場が広がってきた（OJT的な研修の引受先の機会拡大など）。

また、地域包括支援センターに配置される職員として規定されているものの、それを援用して居宅介護支援事業所に置くことも認め、事業所内外でのスーパービジョンやOJTの研修を行うことで報酬上の加算を得ることも可能としている。さらには、今後は事業所の運営管理にあたることも決まっている。

このことは、今後の主任相談支援専門員の研修を考える上で示唆を与えると考える。

(2) 相談支援専門員向けの研修カリキュラム案と教材の開発

29年度はカリキュラムをさらに詳細に検討し研修シラバスの作成を行った。シラバスを作成するにあたり、28年度は概略的に示した研修実施上の留意点をさらに詳細に明示した。

29年度のシラバス検討のポイントとした点と同時に特に留意が必要なのは、本カリキュラムを効果的に実施するためには、研修全体をデザインするチームが必要な点である。このチームには、自治体担当者や研修実施機関の担当者だけでなく、学識経験者や各都道府県の相談支援体制整備の中核となる実務者（基幹相談支援センターの中核となる主任相談支援専門員やその職能団体である都道府県相談支援専門員協会のメンバー）の参加が必須である。

そのためのチーム作りや予算編成も含めた検討は、複数年かけて行われ、次第に土壌が醸成されてゆくものと想定される。

講義における知識や価値のわかりやすい教授、演習における実際の業務場面に即した実践的な研修など、それぞれの教育方法によって効果的な担い手は異なる。そのため、主な担い手についてもシラバスに明記した。

特に、演習にその地域の中核となる実践者を配置することの重要性には留意すべきである

が、以下にその理由を述べる。

本研究で触れられているとおり、相談支援専門員の質の向上には、OJTが必須であり、今後は基幹相談支援センターの中核となる主任相談支援専門員が担い手となり、実践されてゆく環境となることが想定される。

現代の学習理論においては知識伝達型ではなく、アクティブラーニング等参加学習型の学びの環境が有効な場合が多いとされ、職業教育においてもそのことが言われている。

この観点から、シラバスにおいて、受講生が能動的に参加できる学習環境デザインの採用を研修の企画立案において留意するよう明記し、グループワークによる参加型の科目を多く採用、その運営方法についても標準的なありかたを示すなどの工夫を行った点も重要である。

(3) モデル初任研修の効果と内容に関する評価

モデル初任研修参加者の事前、事後評価の結果から、モデル研修参加者の初期の理解水準の高さにより研修効果をあまり高くしていないことが示唆された。

研修内容に関しては次の点が面接調査から示された。

相談支援の基盤としてのソーシャルワークの位置づけを明示する必要があること

ストレンクス視点に加えて相談支援専門員としての見立てについて講義に盛り込むこと
意思決定支援や地域支援に関する初任者研修から現任者研修に至る連続性や対応関係についての意識の必要性

(4) モデル現任研修の効果と内容に関する評価

モデル現任研修参加者の事前、事後評価の結果から、モデル初任研修と同様に参加者の初期の理解水準の高さにより研修効果をあまり高くしていないことが示唆された。

研修内容に関しては次の点が面接調査から示された。

初任者研修との連動についての必要性
個別相談支援の用語・概念の整理の必要性
コミュニティワークの内容の整理の必要性
グループスーパービジョンの内容の整理の必要性

演習方法の検討

インターバル期間の課題

E．結論

主任相談支援専門員のコンピテンシーの構成要素を整理し、モデル初任研修、モデル現任研修のカリキュラム案にそって、各科目の教材と教育方法を検討した。

モデル初任研修に関しては、相談支援専門員 18 名に対して講義部分を除いた演習部分を 4 回にわたって実施した。

モデル現任研修に関しては、同様に、相談支援専門員 18 名に対して講義部分と演習部分を 4 回にわたって実施した。いずれのモデル研修参加者の初期の理解水準の高さもあり、研修の教育効果に関してはさらなる検討が必要である。研修内容に関してはモデル研修参加者から概ね高い評価を得ることができた。

F．健康危険情報

特になし。

G．研究発表

1．論文発表

小澤温「計画相談の質を考える」、発達教育、36 巻 7 号、1 頁、2017 年 6 月

小澤温「障害福祉制度の近年の動向と課題」、社会保障研究、2 巻 4 号、442～454 頁、2018 年 3 月

2．学会発表

大村美保・森地徹・小澤温「相談支援従事者研修のプログラム開発と評価に関する研究」日本発達障害学会第 52 回大会、2017 年 8 月

Atsushi Ozawa: Actual Status on Case Management for Persons with Disabilities in Japan, 33rd Pacific Rim International Conference on Disability and Diversity, 2017.10.10 (Honolulu, USA)

H．知的財産権の出願・登録状況

特になし。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
小澤温	計画相談の質を考える	発達教育	36巻7号	1	2017年
小澤温	障害福祉制度の近年の動向と課題	社会保障研究	2巻4号	442～454	2018年

研究会議の開催状況

日時	内容
4月16日	第1回研究会議
6月11日	第2回研究会議
7月23日	第3回研究会議
10月1日	モデル研修及びモデル研修評価（現任）第1回
10月15日	モデル研修及びモデル研修評価（現任）第2回
10月22日	モデル研修及びモデル研修評価（現任）第3回
10月29日	モデル研修及びモデル研修評価（現任）第4回
11月18日	モデル研修及びモデル研修評価（初任者）第1回
11月19日	モデル研修及びモデル研修評価（初任者）第2回
12月2日	モデル研修及びモデル研修評価（初任者）第3回
12月16日	モデル研修及びモデル研修評価（初任者）第4回、 第4回研究会議
1月21日	第5回研究会議

（資料 1）初任者研修（モデル研修）の検討と整理

資料 1-1 モデル研修実施経過

資料 1-2 モデル研修参加者における事前・事後評価

資料 1-3 モデル研修参加者・インタビュー調査結果・考察

資料 1-4 モデル研修の振り返りおよび考察

資料 1-1 モデル研修実施経過

研究協力者：藤川 雄一

概要

今年度は、昨（平成28）年度本研究において開発した相談支援従事者養成研修（以下法定研修という）初任者研修のカリキュラムについて再検討を行い、一部改変を加えた。その上で、標準となるシラバスを開発し、都道府県における法定研修企画運営担当者を対象としたモデル研修を実施した。

開発したカリキュラムは7日間での実施を想定した内容であるが、今回は4日間に縮約して実施した。

1. 目的

障害福祉分野における相談支援においては、障害者自立支援法施行以前の「障害者ケアマネジメント従事者養成研修」から20年近い歴史をもつ研修として「障害者相談支援従事者養成研修」の「初任者研修」が実施されてきた。

そのため、昨年度の本研究においては、これまでの各都道府県の知見等を集約し、現行研修の課題を整理し、その改善策を検討する形で初任者研修のカリキュラム開発を行った。

今年度においては、カリキュラムのさらなる改訂と実際の研修実施に際して必要となるシラバスの作成を行った上で、従来研修からの移行の視点を持ち、モデル研修を実施することを目的とした。

具体的には、都道府県における研修企画実施担当実務者を対象としたモデル研修を実施し、従来研修をどのような視点や方法で変更するかを伝え、インタビューを行うことで、変更されたカリキュラムでの研修実施上のポイントを整理することを目的とした。

2. カリキュラムおよびシラバスの開発

2.1 カリキュラムの見直し

昨年度は、相談支援専門員として業務に従事するにあたり必要な事項を整理する形でカリキュラム開発を行った。今年度は、それをさらに詳細に検討し、7日間での研修を実施する実務上の要素も勘案する視点でカリキュラムの見直しを行った。具体的な前年度との変更箇所とその理由は以下のとおりである。

① 講義部分における科目と時間の振り分けを変更

ストーリー性（流れ）をもって講義ができ、かつ1日6時間（午前2時間半～3時間、午後3時間～3時間半）の中で組み立てることができる講義科目と内容となるよう前年度案より見直しを行った。また、概要を大づかみなイメージ的把握することから開始し、次第にディテール（厳密性のある知識・技法）へ、抽象から具体へと学びが進むよう、見直しを行った。

また、相談支援専門員は、社会福祉士や精神保健福祉士等のソーシャルワーク関連基礎資格を必ずしも前提としないことから、実務的あるいはテクニカルな側面だけでなく、目的や価値等を講義および演習が連動して伝えることができるように一部を改変した。その基本的

な構造は下の図1に示すとおりである。



図1 初任者研修・新カリキュラムの構造イメージ

② 学びのナビゲーションを導入

相談支援専門員としての専門性向上には、OJTやoff-JTを取り混ぜた研鑽の継続が必要である。この、研鑽とその継続の必要性について、昨年度はカリキュラムとしては明示していなかったが、これを取り入れることとした。演習の受講ガイダンスとして取り入れたほか、気づきを持つ機会の重要性を体感できるよう、講義や演習の要所に振り返りの時間を確保したほか、スーパービジョンについてもカリキュラムの中に導入することとした。

③ 地域への視点を導入

同時に行われているサービス管理責任者等研修の見直し経過を受け、本研修の講義部分が従来通りサービス管理責任者等研修でも同一カリキュラムで実施される方向性であることを勘案した。具体的には、従来のカリキュラムでは相談支援従事者のカリキュラムのみに設定されていた(自立支援)協議会を核としたいわゆる「地域づくり」(ソーシャルアクション)の内容を取り扱う講義を設けた。また、相談支援の在り方検討会の答申にもある「地域を基盤としたソーシャルワーク」が研修の根底をなすよう、内容の微調整を行った。

2.2 シラバスの開発

また、今年度はカリキュラムをさらに詳細に検討し、次々頁から示すような研修シラバスの作成を行った。シラバスを作成するにあたり、昨年度は概略的に示した研修実施上の留意点をさらに詳細に明示した。

ポイントとした点を以下に挙げるが、同時に特に留意が必要なのは、本カリキュラムを効果的に実施するためには、研修全体をデザインするチームが必要な点である。このチームには、自治体担当者や研修実施機関の担当者だけでなく、学識経験者や各都道府県の相談支援体制整備の中核となる実務者（基幹相談支援センターの中核となる主任相談支援専門員やその職能団体である都道府県相談支援専門員協会のメンバー）の参加が必須である。

そのためのチーム作りや予算編成も含めた検討は、複数年かけて行われ、次第に土壌が醸成されてゆくものと想定される。

① 講義間や講義と演習の役割・連動を明確化

従来の研修では、講義と講義のつながりがなく実施されていたり、講義と演習があたかも全く別個の研修のように実施されてきた都道府県が多くあることが指摘されていることは、昨年度報告書において整理したとおりである。そのため、今回、それぞれの講義のもつ役割や取り扱う内容、講義と演習の連動についてを明確に示すこととした。

具体的には、研修実施の留意点として、その重要性を明記したほか、それぞれの科目の内容、取り扱いや研修実施上の視点を示したところである（標準シラバス内の研修の進め方・留意点を参照）。

② 想定される講義や演習の担い手を明確化

講義における知識や価値のわかりやすい教授、演習における実際の業務場面に即した実践的な研修など、それぞれの教育方法によって効果的な担い手は異なる。そのため、主な担い手についてもシラバスに明記した。

特に、演習にその地域の中核となる実践者を配置することの重要性には留意すべきであるが、以下にその理由を述べる。

本研究の各所で触れられているとおり、相談支援専門員の質の向上には、OJTが必須であり、今後は基幹相談支援センターの中核となる主任相談支援専門員が担い手となり、実践されてゆく環境となることが想定される。

OJTやOJTの一環としてのスーパービジョンが「普通にある」業務環境が実現した時、初任者研修における実践例を取り扱う演習は、現実と切り離された off-JT としてあるのではなく、その後の実践の入口として、これから現場で使う方法論を体感する役割を担う科目となる。そのことを想定し、本シラバスは作成されている。

③ 学びの環境の明確化

現代の学習理論においては知識伝達型ではなく、アクティブラーニング等参加学習型の学びの環境が有効な場合が多いとされ、職業教育においてもそのことが言われている。

この観点から、シラバスにおいて、受講生が能動的に参加できる学習環境デザインの採用を研修の企画立案において留意するよう明記し、グループワークによる参加型の科目を多く採用、その運営方法についても標準的なありかたを示すなどの工夫を行った。

2.3 演習プログラムや様式例の開発

従来の初任者研修では、ケアマネジメントツールや演習に活用する様式については明確に示

されておらず、実質的にケアガイドラインに示された様式やサービス等利用計画の厚生労働省の参考様式を活用することが通例であった。

本研究では、詳細な研修方法を示すことをコンセプトとしたため、プログラム例や様式例を改めて開発することとした。その際の視点は以下のとおりである。

演習プログラムについて

- ① 演習の展開については詳細を記したプログラム案(進行表)の例を提案することとした。
- ② 演習用教材についても、教材例を提案することとした。
(指導者用教材を併せて提示することとしているが、モデル研修では、簡易的に研修の視点を入れた教材を使用した。)

ケアマネジメントおよび演習様式について

- ① サービス等利用計画作成事務に係る様式については、厚生労働省の示す参考様式が全国的に普及しており、この様式を実務上使ってゆくことが標準と想定されることから、既存の様式を活用することとした。
- ② アセスメント様式については、ケアガイドラインに示された項目を標準として使っている都道府県が多いが、現行様式は医学モデルに視点が偏りがちなきらいがあるなど、課題があることから、この様式を改訂することとした。
- ③ 以下の様式については、今回新たに提案することとした。
 - ・ スtrenグスの整理票
 - ・ ニーズ整理票
 - ・ 社会資源活用シート

相談支援従事者養成研修 初任者研修・新カリキュラム（標準シラバス）

獲得目標	① ソーシャルワークとしての障害者相談支援の価値と知識を理解する。 ② 基本相談支援の理論と実際を理解し、障害者ケアマネジメントのスキルを獲得する。 ③ 計画相談支援の実施に関する実務を理解し、一連の業務ができる。 ④ 地域づくりとその核となる（自立支援）協議会の役割と機能を理解する。
研修の進め方 留意点	以下のサイクルに則り展開し、講義と演習の連動を意識した研修を企画する。 事前学習→講義→演習（モデル演習）→課題（実習）→演習（実習課題に基づく） 講義と演習を同一年度に一体的に受講することを前提として開発されたカリキュラムである。 講義は学識経験者等、演習は都道府県の中核となる実践者が担うことを前提として開発されたカリキュラムである。 講義において、内容の重複する箇所があるが、どの講義で重点的に取り扱うかを企画者が十分検討する。 同一の内容を複数の講義で重点的に取り扱うことは避ける。ただし、講義と演習の連動における重複はこの限りでない。） 講義内容は本表に掲載した内容を取り扱うこととし、それ以外の内容は①「既習を前提とする基礎的内容」あるいは②「発展的学習内容」であることを明確にする。 本研修で必ず習得すべき内容と前提となる既習事項、発展的事項を明示する。 演習は（導入・まとめ）の講義とワークを交互に実施するなど冗長にならないよう留意し、学びのポイントを明示する。 演習は、受講生が主体的に参加し、学ぶことのできる環境で実施する原則として、グループワークを多用する。 演習時は、都道府県（各地域）における相談支援の中核となる現任研修修了者以上の実践者（主任相談支援専門員を想定）を演習講師とし、グループに1名配置する。 演習における標準的なグループ人数は6名とする。

カリキュラム

事前学習	基礎知識 関連知識	-	○障害者総合支援法及び障害福祉関連制度、各障害の特性について（テキストによる事前学習） ○効果測定：学習後自己評価表を研修開始時に提出 ※効果測定の方法や評価・判定方法については別途要検討
------	-----------	---	---

区分	科目名	時間	項目	内容		
1 日目	講義 1 オリエンテーション 研修受講ガイダンス	1h	本研修の獲得目標 プログラム概要	相談支援の目的 継続的な学びの必要性 人材育成、職業教育、成人学習 理論 基礎的な成人学習理論 実地指導やスーパービジョンの必要性		
			① 相談支援の目的 (1.5h)	障害者の地域生活とその支援 障害者の自立と尊厳の確保、社会参加 ・自己決定（意思決定）への支援・権利擁護、エンパワメント、リカバリー ・障害のある人を含めた誰もが暮らすことのできる地域づくり		
	講義 2 相談支援概論	5h	② 相談支援の基本的視点 (2.5h)	基本的視点 ① 個別性の重視、② 生活者視点、QOLの重視、③ 本人主体、本人中心 ④ 自己決定（意思決定）への支援、⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目、 ⑥ 権利擁護 ※以下の項目については特に重点的に触れる。 医学モデルから社会モデル、生活モデルへ 生活者視点と利用者の共感的理解 意思決定支援 ・意思決定支援とは ・意思決定支援の原則・基本的視点 ・本人の意思と嗜好を基とする意思決定とその支援 ・最善の利益原則と代理代行決定 ・ストレングス視点と本人のストレングスを活かした支援		
			③ 相談援助技術 (1h)	地域を基盤としたソーシャルワーク（としての相談支援） ・ソーシャルワークにおけるミクロ、メゾ、マクロの視点		
			日本の障害福祉の歴史	障害福祉制度の変遷		
	共通 講義	講義 3 障害者総合支援法及び児童福祉法の 理念・現状とサービス提供プロセス	1.5h	障害者総合支援法等による障 害児者の自立と共生社会の理 念	自立支援給付、地域生活支援事業、自立支援医療、補装具、利用者負担、障害福祉計画、不服申し 立て、障害児通所支援、障害児入所支援、介護保険との関係等について 法にもとづく相談支援事業 障害福祉サービス（障害児支援）の提供プロセス 障害者の権利を護るための法律及び関連制度の関係性および概要 ※障害者の権利に関する条約、障害者差別解消法、障害者虐待防止法、成年後見制度や日常生活自 立支援事業等	
障害者総合支援法及び児童福祉法 における相談支援（サービス提供）の基 本				相談支援事業の成り立ち、相談支援の体系 各指定相談支援事業の基準に基づく相談支援専門員としての責務及び業務 指定障害福祉サービス事業等の基準に基づくサービス管理責任者等としての責務及び業務 相談支援専門員とサービス管理責任者等との連携のあり方とその重要性 基本相談支援を基盤とした計画相談支援のプロセス サービス等利用計画 障害児支援利用計画と個別支援計画の関係 ・障害者虐待防止の手引き」等を活用した虐待防止		
講義 4 相談支援におけるケアマネジメント技法 とそのプロセス		1.5h	ケアマネジメントとそのプロセス	ケアマネジメントの歴史と目的 ケアマネジメントのプロセスとその留意点 社会資源の捉え方とアクセス方法、資源開発		
			基本的視点	相談支援の基本的視点（再掲：講義 2を復習的に簡単に触れる。）		
2 日目	講義 5 相談支援におけるケアマネジメント技法 とそのプロセス	1.5h	多職種連携とチーム支援	多職種連携とその重要性 チームアプローチの留意点 相談支援専門員とサービス管理責任者等との連携 個別支援計画等とサービス等利用計画等の連動		
			講義 6 相談支援における地域への視点	1.5h	地域における相談支援体制	各指定相談支援事業、地域生活支援事業による相談支援事業（市町村相談支援事業、基幹相談支援センター）の各役割と機能、相互の連携並びに重層的な体制
					地域課題の抽出と共有	発展的内容であるが、初任者研修でも簡単に触れる）
					地域診断、地域資源の把握	発展的内容であるが、初任者研修でも簡単に触れる）
					地域づくり、資源の改善・開発	ネットワーク構築（※ネットワークの充実） 官民の協働と協議会
研修のまとめ	地域を基盤としたソーシャルワーク ・2日間のみと演習にむけて					

	区分	科目名	時間	項目	内容	
演習	1 日目	演習1 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術 (ケアマネジメントおよびサービス等利用計画作成に関するプロセス体験演習)	12h	インテーク・アセスメント (6h)	本人中心の支援、関係性の構築、本人の「人となり」の理解) 1) ロールプレイやモデル事例を基にした模擬面接等によるインテークと関係性構築 2) 情報の収集と整理 3) 本人像の把握とニーズの整理 ※グループ討議にストレングスやエンパワメント、権利擁護や意思決定支援の視点を盛り込むよう配慮。	
	ゴール設定とプランニング (3h)			アセスメントにより明確化したニーズへの支援・地域資源へのアクセスと活用の検討 サービス等利用計画の作成。 模擬サービス担当者会議等によるサービス管理責任者を中心とした他機関等との連携体験		
	モニタリング・ターミネーション (2h)			支援への評価、利用者満足度、新たなニーズの出現、ゴールの変化、他機関連携の状況確認 支援の終結 再アセスメント、再プランニング		
	振り返り 実習ガイダンス (1h)			演習1の振り返り インターバル中の課題実施及び提出についてのガイダンス		
	2 日目	実習1	目安 1ヶ月	課題① 相談支援プロセスの実践①	自らの関わる障害当事者の中へインテークからアセスメントを実施する(再確認を含む)。 都道府県もしくは指定研修機関が指定する書式等を作成し提出。 ※今後従事予定で選定困難な場合、基幹相談支援センター等の紹介により、既存の相談支援事業所等の指導・監督のもと実習することも可とする。	
				課題② 地域資源に関する情報収集	研修終了後に就業予定の相談支援事業所等が所在する地域(市町村・障害保健福祉圏域等)において、地域資源に関する情報を収集(公的機関、障害福祉サービス提供事業所、自立支援協議会など)。 都道府県もしくは指定研修機関が指定する地域資源整理票を作成し提出。 ※同一地域に複数の受講生がいることが想定されるため、地域づくりや研修効率化のためにも、基幹相談支援センター等が中心となり、協議会等で実習時の対応を検討することが必要になると想定される。	
	3 日目	演習2-1		6h	アセスメント結果の検討 (スーパービジョン・事例検討の体験)	事前課題で作成した事例情報、アセスメント結果、支援方針について、グループ毎に検討を実施 手法:構造化されたグループスーパービジョン・事例検討を想定。 導入講義45分、グループ演習270分、演習ふりかえり45分 ※1名あたり45分。 報告5分→本人像の共有5分→質問10分→ブレインストーミング15分 →応答3分→休憩・転換:7分) ※休憩は数人毎にまとめてとること。
		実習2	目安 1ヶ月	課題③ 相談支援プロセスの実践②	演習2-1での他者の助言・自らの気づきをもとに、再度アセスメントを実施するとともに、サービス等利用計画(案)の作成を行う。	
	4 日目	演習2-2		3h	再アセスメント結果および支援方針(計画案)の報告・共有 (ケースレビューの体験)	実習②で実施した再アセスメントおよび作成したサービス等利用計画(案)について、グループに報告・共有。 ※1名あたり25分を想定。 報告:5分→質問:5分→ブレインストーミング:10分→応答:3分、休憩・転換:2分) ※休憩は全員分をまとめて10分挟む。
		演習3-1		3h	ケアマネジメントプロセスの定着 演習(前半) アセスメント	演習2-2で共有された実践例より1つを選定。 グループによる再検討(ニーズ整理)により、アセスメントを深める。
	5 日目	演習3-2		4h	ケアマネジメントプロセスの定着 演習(後半) プランニング	演習3-1で明確になったニーズへの支援の検討、プランの作成。 事例提出者者の地域を想定して具体的な地域資源を入れた支援計画を検討・作成 1) 自由な資源のアイデア出し(60分) 2) サービス等利用計画作成(60分) 3) ふりかえりと地域づくり協議会(60分)
		演習4		2h	振り返り	導入講義 個人での気づきの整理 グループおよび全体での討議および共有 まとめ講義

図2 初任者研修 標準シラバス

3. モデル研修の実施

3.1 実施概要

2で開発したカリキュラムおよびシラバスに基づき、次頁のとおりモデル研修を実施した。

日 程： 4日間（2018年11月18日／11月19日／12月2日／12月16日）

各日10時～16時まで（最終日は15時30分まで）

場 所： 筑波大学東京キャンパス（東京都文京区大塚3-29-1）

対象者： 従来の相談支援従事者養成研修の中核的企画者・担当者
（神奈川県および埼玉県より計16名）

内 容： 開発したカリキュラムを縮約し、研修実施。

実施日毎に研修終了後にグループインタビュー。

- ねらい： ① 相談支援の熟達者、研修の企画運営者に対し本研修を実施することで、カリキュラムや研修実施上の課題点を指導者側の観点から抽出する。
② 相談支援の熟達者、研修の企画運営者に対し本研修を実施することで、各都道府県の研修の企画運営者にカリキュラムの変更を伝達してゆく上での課題を抽出する。

3.2 実施内容について

以下に、実際のカリキュラムおよびシラバスを縮約した点を示す。なお、モデル研修の実施プログラムは次頁のとおりである。

① 講義（2日間）

今回の対象が研修の企画者であることを考慮し、実際の講義を行うのではなく、従来カリキュラムとの変更点やその意図、重点的に取り扱う項目について等の教授する際のポイントについての説明とした。

② 演習1については、本来の時間および内容で実施した。

③ 実習1については、本来の内容を期間を想定の半分（2週間）のインターバルで実施した。

④ 演習2-1、演習2-2で本来1.5日の内容であるが、実践例の検討数を減らし、1日で実施した（実際には、受講生全員の実践例を取り扱うこととなる）。

⑤ 演習3-1、演習3-2、演習4で本来1.5日の内容であるが、演習3のグループワークの時間を短縮し、1日で実施した。また演習4の振り返りについては、グループインタビューと重複するため、グループワークは実施せず、振り返り講義のみを実施した。

● 1日目 [1月18日(土)]

時間	科目	概要	担当
10:10~11:00	50 [共通講義] 研修体系と初任者研修	1) 相談支援従事者養成研修の全体像 2) 初任者研修の位置づけと獲得目標 3) 「共通講義」の体系と内容(概説)	藤川
11:00~11:10	10 休憩		
11:10~12:00	50 [演習1] ケアマネジメント技術演習	アセスメント① 関係性構築とインテークアセスメント	富岡 藤川
12:00~13:00	60 昼休憩		
13:00~13:30	30 [演習1] ケアマネジメント技術演習	アセスメント② 情報収集	富岡 藤川
13:30~16:00	150 [演習1] ケアマネジメント技術演習	アセスメント③ ニーズ整理	富岡 藤川

● 2日目 [1月19日(日)]

時間	科目	概要	担当
10:10~11:00	50 [演習1] ケアマネジメント技術演習	プランニング① 自由な発想に基づくプランニング	富岡 藤川
11:00~11:10	10 休憩		
11:10~12:00	50 [演習1] ケアマネジメント技術演習	プランニング② サービス等利用計画作成	富岡 藤川
12:00~13:00	60 昼休憩		
13:00~13:50	50 [演習1] ケアマネジメント技術演習	プランニング③ サービス担当者会議	富岡 藤川
13:50~14:00	10 休憩		
14:00~14:30	30 [演習1] ケアマネジメント技術演習	モニタリング① 本人とのモニタリング	富岡 藤川
14:30~15:20	50 [演習1] ケアマネジメント技術演習	モニタリング② サービス担当者会議	富岡 藤川
15:20~15:30	10 休憩		
15:30~16:00	30 [演習1] ケアマネジメント技術演習	演習のふりかえり	藤川

● 3日目 [2月2日(土)]

時間	科目	概要	担当
10:10~10:40	30 [演習2-1] 課題研究	事例検討の体験(アセスメント) 導入	藤川
10:40~10:50	10 休憩		
10:50~12:00	70 [演習2-1] 課題研究	事例検討の体験(アセスメント) 演習	鈴木 富岡 藤川
12:00~13:00	60 昼休憩		
13:00~14:40	100 [演習2-1] 課題研究	事例検討の体験(アセスメント) 演習	鈴木 富岡 藤川
14:40~15:00	20 休憩		
15:00~15:20	20 [演習2-1] 課題研究	事例検討の体験(アセスメント) 演習ふりかえり	藤川
15:20~16:00	40 [演習2-2] 課題研究②	ケースレビューの体験(再アセスメントと プランニング) 演習	鈴木 富岡 藤川

● 4日目 [2月16日(土)]

時間	科目	概要	担当
10:10~11:40	90 [演習3-1] 課題研究③	(再)アセスメント・プランニング演習 グループワークによる再ニーズ整理	鈴木 富岡 藤川
11:40~12:40	60 昼休憩		
12:40~13:10	30 [演習3-1] 課題研究③	(再)アセスメント・プランニング演習 自由なアイデア出し	鈴木 富岡 藤川
13:10~13:50	30 [演習3-1] 課題研究③	(再)アセスメント・プランニング演習 サービス等利用計画作成	
13:50~14:00	10 休憩		
14:00~15:00	60 [演習3-1] 課題研究③	(再)アセスメント・プランニング演習 ふりかえりと地域づくり協議会	鈴木 富岡 藤川
15:00~15:30	30 [演習4] [演習5]	演習ふりかえり 演習全体のふりかえり	藤川

図3 モデル研修プログラム

資料 1-2 モデル研修参加者における事前・事後評価

分担研究者：大村 美保

1. 目的

相談支援専門員を中心に障害者相談支援事業に関する専門的な知見を有する者による、相談支援従事者初任者研修のモデル研修の受講体験を行った。本研究は、研修内容の修正・確定に資することを目的に、研修の効果の測定及び研修内容の妥当性を検討してプログラム評価を行うため、研修受講の前後における自身の習熟度、及び研修内容についての評価・改善点を質問紙調査により把握し分析した。

2. 対象

埼玉県相談支援専門員協会及び神奈川県相談支援専門員協会に所属あるいは関与する相談支援専門員等延べ 57 名を対象とした。

3. 方法

初任者研修のモデル研修（4 日間）の参加者延べ 57 名に対して質問紙調査を行い、講習受講前と受講後それぞれの自身の習熟度の 5 段階での自己評価、及び講習・演習の内容資料に関する 4 段階での評価を行った。質問紙調査は、研修の日程に沿って 4 日間すべての日程で行い、それぞれの参加者に受講前 5 分間程度、及び受講後 10 分間程度を目途に記入を依頼した。調査票情報はデータセットに入力し、受講前と受講後の平均値で t 検定を行い、講義・演習の内容と資料については一元配置分散分析を行った。

4. 結果

(1) 受講前後での習熟度に関する自己評価の比較

1 日目講義「研修体系と初任者研修」の受講前の平均値は 3.22、受講後の平均値は 3.50 で、受講後は平均 0.28 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(8)=1.41$, $p=0.19>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。講義「演習 1」の受講前の平均値は 3.36、受講後の平均値は 3.45 で、受講後は平均 0.09 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(10)=0.56$, $p=0.59>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

2 日目講義「ケアマネジメント技術演習」の受講前の平均値は 3.69、受講後の平均値は 3.78 で、受講後は平均 0.09 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(12)=0.55$, $p=0.59>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

3 日目講義「アセスメント」の受講前の平均値は 3.62、受講後の平均値は 3.75 で、受講後

は平均 0.13 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(12)=0.99$, $p=0.34>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

4 日目講義「アセスメント・プランニング」の受講前の平均値は 3.53、受講後の平均値は 3.79 で、受講後は平均 0.26 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(16)=2.62$, $p=0.02>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

(2) 各講義・演習に対する評価

1 日目「研修体系と初任者研修」の内容等について、評価得点の平均値はそれぞれ「研修体系と初任者研修」3、「アセスメント 1」3、「アセスメント 2」3.1、「アセスメント 3」3.2 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった ($F(3,47)=1.24$, $p=0.30>.01$)。1 日目「研修体系と初任者研修」の資料等について、評価得点の平均値はそれぞれ「研修体系と初任者研修」3、「アセスメント 1」3、「アセスメント 2」3.1、「アセスメント 3」3 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった ($F(3,38)=0.26$, $p=0.85>.01$)。

2 日目「ケアマネジメント技術演習」の内容等について、評価得点の平均値はそれぞれ「プランニング 1」3、「プランニング 2」3、「プランニング 3」3.1、「モニタリング 1」3.2、「モニタリング 2」3 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった ($F(4,54)=1.51$., $p=0.20>.01$)。2 日目「ケアマネジメント技術演習」の資料等について、評価得点の平均値はそれぞれ「プランニング 1」2.6、「プランニング 2」3、「プランニング 3」3、「モニタリング 1」3、「モニタリング 2」2.8 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった ($F(4,52)=3.56$, $p=0.012>.01$)。

3 日目「アセスメント」の内容等について、評価得点の平均値はそれぞれ「2-1 導入」3.2、「2-1 1 事例」3、「2-1 2 事例」3.1、「2-1 振り返り」3.1、「演習 2-2」3 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった ($F(4,51)=0.56$, $p=0.70>.01$)。3 日目「アセスメント」の資料等について、評価得点の平均値はそれぞれ「2-1 導入」3、「2-1 1 事例」3、「2-1 2 事例」3、「2-1 振り返り」3、「演習 2-2」2.9 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった ($F(4,46)=1.03$, $p=0.40>.01$)。

4 日目「アセスメント・プランニング」の内容等について、評価得点の平均値はそれぞれ「演習 3-1 グループワークによる再ニーズ整理」2.7、「演習 3-1 自由なアイデア出し」2.9、「演習 3-1 サービス等利用計画作成」2.9、「演習 3-1 ふりかえりと地域づくり・協議会」2.7、「演習 4 演習ふりかえり」3、「演習 5 演習全体ふりかえり」3 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった

($F(5,54)=0.92$., $p=0.48>.01$)。4日目「アセスメント・プランニング」の資料等について、評価得点の平均値はそれぞれ「演習 3-1 グループワークによる再ニーズ整理」2.7、「演習 3-1 自由なアイデア出し」2.9、「演習 3-1 サービス等利用計画作成」2.8、「演習 3-1 ふりかえりと地域づくり・協議会」2.9、「演習 4 演習ふりかえり」3、「演習 5 演習全体ふりかえり」3であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった ($F(5,50)=0.78$., $p=0.56>.01$)。

5. 考察

(1) 受講前後での習熟度に関する自己評価の比較

受講前と受講後の習熟度の自己評価の比較では、1日目講義「研修体系と初任者研修」、講義「演習 1」、2日目講義「ケアマネジメント技術演習」、3日目講義「アセスメント」、4日目講義「アセスメント・プランニング」とも受講前の平均値は3.22~3.69、受講後の平均値は3.45~3.79と、受講前・受講後ともに習熟度の自己評価は高かった。また、受講前後での平均値に有意差は認められなかったものの、いずれの講義においても平均で0.09~0.28ポイント上昇していた。これら習熟度の自己評価の結果は、今回のモデル研修は相談支援専門員を中心に障害者相談支援事業に関する専門的な知見を有する者を対象に行われたことを勘案すれば、1)参加者は初任者研修の内容に受講前段階から相当に習熟しており、2)各講義はそうした熟練した参加者であってもさらに内省と習熟を促すことのできる内容を伴っていたと理解できる。

(2) 各講義・演習に対する評価

1日目~4日目の各講義・演習の内容に関する評価得点は平均値2.7~3.2、資料に関する評価得点は平均値2.6~3.0といずれも比較的高く、一元配置分散分析の結果、各日の講義・演習間で評価得点の平均に有意差は認められなかったことから、モデル研修の内容・資料ともに全体をとおして概ね妥当であったと評価できる。

このうち、比較的高い評価得点であった講義・演習の内容は、1日目「研修体系と初任者研修」のうち「アセスメント3」3.2、2日目「ケアマネジメント技術演習」のうち「モニタリング1」3.2、3日目「アセスメント」のうち「2-1 導入」3.2であった。これらは現行の初任者研修の内容と概ね一致し、その内容が妥当であると参加者が共通して判断した結果であると考えられる。一方、比較的低い評価得点であった講義・演習の内容は、4日目「アセスメント・プランニング」のうち「演習 3-1 グループワークによる再ニーズ整理」2.7、「演習 3-1 ふりかえりと地域づくり・協議会」2.7、比較的低い評価得点であった講義・演習の資料は、2日目「ケアマネジメント技術演習」のうち「プランニング1」2.6、「モニタリング2」2.8と4日目「アセスメント・プランニング」のうち「演習 3-1 グループワークによる再ニーズ整理」2.7であった。現行の初任者研修では標準的に使用していない様式を用いたアセスメント演習であったため、後述するインタビュー調査においても、様式その

ものへの疑問・質問や意見が多く見られており、参加者による新様式の知識・理解の不足が比較的低い評価につながったと考えられる。これらの質問・意見を踏まえて様式の修正を行うとともに、講義での説明をさらに工夫する必要があると考えられる。また、新様式については、現任研修等の機会を利用し、経験のある相談支援専門員に広く周知して相談支援の現場で積極的に新様式を活用したアセスメントを行うことで、理解を深めて定着を図る必要がある。

講義・演習名	講師	研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください					
共通講義 「研修体系と 初任者研修」	藤川	研修前	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる
		《内容について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)				

講義・演習名	講師	研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください					
演習1 ケアマネジ メント技術演習	藤川 富岡	研修前	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる

アセスメント(1) 関係性構築とイン テークアセスメント	藤川 富岡	《内容について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)			
------------------------------------	----------	---	---	--	--	--

アセスメント(2) 情報収集	藤川 富岡	《内容について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)			
-------------------	----------	---	---	--	--	--

アセスメント(3) ニーズ整理	藤川 富岡	《内容について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)			
--------------------	----------	---	---	--	--	--

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

講義・演習名	講師	研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください					
ケアマネジメント技術演習	藤川 富岡	研修前	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる
プランニング（1） 自由な発想に基づく プランニング	藤川 富岡	《内容について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)				
プランニング（2） サービス等利用計画 作成	藤川 富岡	《内容について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)				
プランニング（3） サービス担当者会議	藤川 富岡	《内容について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)				

モニタリング（1） 本人とのモニタリ ング	藤川 富岡	《内容について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)			
モニタリング（2） サービス担当者会議	藤川 富岡	《内容について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)			
演習のふりかえり	藤川 富岡	《内容について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない あまりよくない よい たいへんよい (自由にご記入ください)			

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

講義・演習名	講師	研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください					
アセスメント		研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
演習2-1 課題研究 事例検討の体験 (アセスメント) (導入)	藤川	《内容について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)				
演習2-1 課題研究 事例検討の体験 (アセスメント) (演習) 1事例	藤川 富岡	《内容について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)				
演習2-1 課題研究 事例検討の体験 (アセスメント) (演習) 2事例	藤川 富岡 鈴木	《内容について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)				

演習2-1 課題研究 事例検討の体験 (アセスメント) 演習ふりかえり	藤川	《内容について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)				
演習2-2 課題研究2 ケースレビューの体験 (再アセスメントとプランニング) 演習	藤川 富岡 鈴木	《内容について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)				

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

講義・演習名	講師	研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください					
(再) アセスメント・プランニング		研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
演習3-1 課題研究 (再) アセスメント・プランニング演習 グループワークによる再ニーズ整理	藤川 富岡 鈴木	《内容について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)				
演習3-1 課題研究 (再) アセスメント・プランニング演習 自由なアイデア出し	藤川 富岡	《内容について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)				
演習3-1 課題研究 (再) アセスメント・プランニング演習 サービス等利用計画作成	藤川 富岡 鈴木	《内容について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)				

演習3-1 課題研究 (再) アセスメント・プランニング演習 ふりかえりと地域づくり・協議会	藤川	《内容について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)			
演習4 演習ふりかえり	藤川 富岡 鈴木	《内容について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)			
演習5 演習全体のふりかえり	藤川 富岡 鈴木	《内容について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)	《資料・教材・方法について》 よくない <input type="checkbox"/> あまりよくない <input type="checkbox"/> よい <input type="checkbox"/> たいへんよい <input type="checkbox"/> (自由にご記入ください)			

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

--

資料 1-3 モデル研修参加者・インタビュー調査結果・考察

分担研究者：森地 徹

1. 目的

相談支援従事者初任者研修のモデル研修について、相談支援専門員を中心とする相談支援事業に対する専門的な知見を有する方々に体験していただき、その内容についての評価及び改善点についてのインタビュー調査を行うことを通して、研修内容の確定を図ることとした。

2. 対象

埼玉と神奈川の相談支援専門員協会に所属あるいは関与する相談支援専門員等 17 名を対象とした。

3. 方法

埼玉と神奈川の相談支援専門員協会ごとに体験したモデル研修の内容についてのフォーカスグループインタビューを実施した。その際、インタビューは研修の日程に沿って 4 日間に分けて行い、それぞれ研修終了後に実施した。なお、調査はそれぞれ 30 分をめどに実施した。その上で、インタビューデータを基に逐語録を作成し、それぞれの研修内容ごとの評価及び改善点について整理を行うこととした。

4. 結果

(1) 事前学習及び共通講義

事前学習として基礎知識・関連知識（障害者総合支援法及び障害福祉関連制度、各障害の特性について）の習得を図ることについて、共通講義として、オリエンテーション（獲得目標、プログラム概要、相談支援の目的、人材育成、職業教育）、相談支援概論（相談支援の目的、相談支援の基本的視点、相談援助技術）、障害者総合支援法及び児童福祉法の理念・現状とサービス提供プロセス、障害者総合支援法及び児童福祉法における相談支援（サービス提供）の基本、相談支援におけるケアマネジメント技法とそのプロセス、相談支援における地域への視点について扱うことについて、以下のような意見が出された。

【基本相談の必要性について】

- ・相談支援の基本があって、ケアマネジメント技法から、で、相談支援の地域への視点っていう・やっぱり基本相談が大事って、重視するっていう辺りが、どういう説明でなるのかなっていうのは、ちょっと気になるんですけど
- ・やっぱり、この基本相談が重視されてるのは、すごくいいことだなと思うので
- ・基本相談支援とはって、定義付けが、やっぱり必要なんじゃないかなって。それがあって、

こういう視点、こういうポイント、ここがポイントだよっていうふうに伝えていかないと
・特定相談で、計画相談でも、必ず基本相談で、法律的にもセットであって、計画立てるのが、特定指定じゃないっていう、その辺の仕組みとか構造から

【ソーシャルワークの位置づけについて】

- ・最初に、ソーシャルワークとは何かみたいな、それがあって目的がある、だから、ちょっとこれ、逆転するっていうんですかね、項目の入れ替えではないんですけども、そういう形にしたほうがいいのかっていうふうには、ちょっと感じた
- ・基礎知識、関連知識のところに、ソーシャルワークっていう言葉は出てこないんで、入れてもらうっていう意見で、ここでまとめてもいいんじゃないですか
- ・相談援助技術ってなってるんですが、で、社会福祉援助技術のことは全部入ってますよってことであれば、これが、社会福祉援助技術のほうがいいのかと

【その他講義に盛り込むべき内容について】

- ・権利擁護だけみたいなのところがないので、その辺の理解の部分が、どうなんだろう、大丈夫なのかなっていうのは、ちょっと感じてるところです。
- ・アウトリーチについて、何ら触れられてないところが、やっぱりそれでいいんだろうかって
- ・アセスメントっても、やっぱり一般的なものと、このモデル事例のことを踏まえたときに、大事にしなきゃいけないところが、やっぱり具体的に出てくるといいなって思いました
- ・今日やった、その見立ての専門性、相談支援専門員の見立ての部分っていうのは、きちんと講義にも入れていただいて
- ・モニタリングっていうところが、演習で使われたとこの部分でしか出てこないんですけども、この辺は、あんまり重要視はしなくていいのかなっていうところが、ちょっとありました

このように、特に共通講義について、基本相談の必要性に触れることが重要だということ、ソーシャルワークの位置づけを明示すべきこと、その他、権利擁護、アウトリーチ、アセスメント、モニタリングといった内容を講義内容に盛り込むべきことについて意見が出された。

(2) 演習1日目

演習1日目として、インテーク・アセスメント（ロールプレイやモデル事例を基にした模擬面接等によるインテークと関係性構築、情報の収集と整理、本人像の把握とニーズの整理）を取り扱うことについて、以下のような意見が出された。

【相談支援過程について】

・、相談支援の基本っていうのは、やっぱり信頼関係だったりとかって、構築するための導入の部分で、このインテイクとか、面接技法だとかっていう話になってくると思うので、そこを前段として考えるの、もう基本でしょって考えるか、もうそこから始まりだって考えるかで、ちょっと、この研修内容変わってくるかなとは思ってるんで

・アセスメントっても、やっぱり一般的なものと、このモデル事例のことを踏まえたときに、大事にしなきゃいけないところが、やっぱり具体的に出てくるといって思いました

・支援者視点でのそのプランニングになって、それを実際にやってみました、で、終わりましたっていうところで終わってしまうと、ご本人の気持ちだったりとか希望が見えないまま終わって

【見立てについて】

・支援者として、何に引っ掛かって、何をチョイスすんのかっていう話が、それが、見立てなんですよ。で、そのことが、ほんとに背景にどうなってんの。その人はほんとに思ってるの。もしくは、環境的に見たときに、どうなってんのって、これが見立てなわけでしょ

・本人が思ってることを、願っていることを、それに対して、僕らは、見立てをフル活用しながら、支援してくんだよっていう最後のまとめができれば、それはいいのかなっていうのは思ってますので

【ニーズ整理表について】

・ニーズ整理表のほうは、今度はもう、これ、見立ての話なので、とにかく、全体のご本人の状態を見たときから、相談支援専門員、どんな見立てするっていうところから入っちゃえばいい

・ニーズの整理表だ、ニーズの整理表については、使い方のガイダンスが必要

【演習のやり方について】

・演習のやり方について、どこまで、個人ワークでお願いをして、どこからをグループワークにするのかっていうことについては、整理が必要かもしれない

このように、演習1日目としてインテイク・アセスメントを取り扱うことについて、一連の相談支援過程を意識すること、見立てを重視すること、ニーズ整理票を活用すること、演習のやり方について意見が出された。

(3) 演習2日目

演習2日目として、ゴール設定とプランニング（支援計画の作成と地域資源へのアクセスと活用、他機関等との連携）、モニタリング・ターミネーション（利用者満足、新たなニーズ、ゴールの変化、他機関連携状況の確認、支援の終結、再アセスメント、再プランニング）、研修振り返りを行うことについて、以下のような意見が出された。

【資料の書式の検討について】

- ・本人のゴールがあって、着目したストレングス、アイデアっていうふうにして、ちょっと書式を検討いただけるといいなって思いました
- ・初任者であればあるほど、ツールの、ある程度、説明と使いやすさっていうのが、やっぱり影響がすごくあるので、現任研修よりも、やっぱり初任者研修のほうは、この書式の質っていうのは上げていっていただけるといいなって思いました
- ・本人のゴールを書く欄がどこかにないと、何に向けてのアイデアなのかなっていうのが、たぶん、きっと初任者だと、分かんなくなっちゃうので、それは、シートの中に書く欄があるといいかなというふうに思いました
- ・アセスメントのところの部分とかなり連動してくる部分なんで、やっぱりその共通の、何ていうんですかね、それは、ぱっと見で分かるような書式になってると。単純に、ここでは、いわゆるニーズ的なものが出てきていないですね。そこが見えるような書式になると、もうちょっと
- ・この書式だと書きづらかったなっていうのが正直な感想なので
- ・ニーズが明確に表れてない文章、ニーズはこれですよみたいなことの確認なしにプランのほうに入っていくっていう感じを受けましたので、そこが、明らかになったニーズはこれですよみたいなことっていうのが、どこかで明確に確認される流れというのがあるといいかなというふうに思っていました
- ・アセスメント表のところの理解、解釈、仮説のところでは、こういうことが背景にあるんじゃないかみたいなのところも一方では出てきて、それが合わさって、なんかニーズみたいなことがどうかかみたいなのを含めてんですけど、その辺の構造といいますか

【振り返りの工夫について】

- ・振り返りのときに、何を振り返るのか、本人にちゃんと聞いていたかなとか、情報共有できていたかなっていう
- ・やっぱ初任者研修ならではのとか、相談支援ならではの振り返りのメニューをもう1個持ってかないと
- ・全体的に、最後にまとめる作業が出てくるなという印象
- ・振り返りのところで、私思ったのが、チェックシートみたいなものがあつたほうが

【プログラムの可視化について】

- ・やっぱり視覚化して、流れをこうしないと、やっぱりついていけないっていえば、ついていけないですね
- ・再アセスメントも、どこが再アセスメントなのかっていうのが、ちゃんと分かるように可視化されたほうがいいのかっていうふうには思っています

【モニタリング方法の検討について】

- ・モニタリング会議で自由度を広げてやっていくっていうところのほうが、段階としては、やる側としては、ハードルが下がるかなっていうふうな印象は受けました
- ・ここはひとつ、がつつとモニタリングで、ロールプレイっていうのが、重要性も含めて必要だと思います

【根拠を求めることについて】

- ・根拠は何、根拠は何っていうのを、相当、私も今日言ったけど、初任研だと、もっともっと言わないと。全然、根拠なしにアイデアばかり出てくっていくことにはなるかなっていうのがありますよね

【合理的配慮の明示について】

- ・総合的な援助の方針のところ、この、この人に対する合理的配慮が入ってこない、なかなか、取り組んでいくのに難しいんじゃないかな

このように、演習2日目としてゴール設定とプランニング及びモニタリング・ターミネーションを行うことについて、諸々の資料の書式の検討、プログラムの振り返りの際の工夫、プログラムの可視化、モニタリング方法の検討、根拠を求めること、合理的配慮を明示することについて意見が出された。

(4) 演習3日目

演習3日目として、アセスメント結果の検討について、以下のような意見が出された。

【教材の改善について】

- ・ニーズ整理表がどこでどう生かされるのかが、ちょっと不明確だったんですね
- ・初見で聞く側で見ると、5分で資料は読みきれないですね
- ・事例概要の枠に、1行でも2行でもこうやって下のほうに選定理由と、相談人として困っていることって入ってたほうが、発表する側も困らないかなと
- ・このアセスメントのところのこの項目、この項目もちょっと細分化しすぎかなっていうの

も若干ちょっとあって

・なにせ発表が5分ぐらいの中で4項目、5項目ってなると、逆に言うとそれで読めるのも限界があるので

・やっぱり6事例を一気にやってくるのは大変で

・ニーズ整理表のアセスメントの欄の捉え方とか、私が思うことのところの根拠が全部ちゃんと1次アセスメントとか、概要に入れ込めるかどうか

【マニュアルの必要性について】

・手順書に近いようなものが多分出来てこないと解消されない

・やり方のマニュアルは必要です

・マニュアル化のレベルをどれだけ精度を上げるかっていうのと

・手順の構造みたいなことも、初任の人だと、送られてきたものがどういうふうな進行になっていくのかっていうのが分かってたほうが

【事例の扱いについて】

・事例の概要と一次アセスと、これが連動していくっていうのがすごく必要なんだろうなとは思ってます

・事例提供者が捉えたものの、キチッとフォーカスされる、どんなふうに捉えたんですかっていうことができた中で、皆さんの意見がもらえるっていうことなんかは結構大事なのかな

・支援者の見立てだけで計画に落とすわけにはいかないと思うんで、そこをどう連動させていくのかなっていうのは、ちょっと今の段階では僕は見えにくい感じがしますが

・やってきた成果物はどこでそれが生かされるのかっていうところの機能がないんで、どう結びつけていけるかなという

このように、演習3日目として各種の教材の改善、進行上のマニュアルの必要性、演習で用いられる事例の扱いについて意見が出された。

(4) 演習4日目・5日目

演習4日目・5日目として、再アセスメント結果と支援方針の報告と共有、再アセスメントからのプランニング演習、研修の振り返りについて、以下のような意見が出された。

【プログラムの内容の検討について】

・もっとさっき言ったようにばらっと自由な所で、なんでもいいから出してよっていうことで、出たことに関してこういうことだよ、ああいうことだよってつなげてあげるような演習の方が、初任者には向いてんのかな

・セッション的には、自由なアイデア出すとかあのセッション入れてあるから、例えばここで言うところの地域の多様な資源へのアクセスと活用とかってというのは、セッションそのものの狙いとして当然やるじゃない。それはそれでやれるんだけど、やっぱりやった後で振り返ってもいいのかなと思います

・今日やった演習の所では、今日皆さんの力を借りたので、だいぶインフォーマルな社会資源へのアクセスとか、その情報とか種類とかってというのが、かなりのボリュームで出て来ましたけれども、初任だとすかすかになっちゃわないかなって思いながら進めてました

・初任なので、プランニングできるってところが最終的なことだと思いますね。プラン立てられますっていう所。で、そこに立てるプロセスの中に重要なものがこういうのがある。そこがこういうのを参考にしましょう。こういうヒントがありますよだと、相当幅が広がっちゃうんでブレちゃうと思うんです

・やっぱり各セッションごとの単位の中での、その獲得目標とか狙いとか、基準みたいなものはあった方がいいのと、あと、それが全体の中の構成の中でどのようにつながってるのかとか連携してるのかって

・全体が見れる物、それから単位ごとで見れる物っていうものが、全体の設計図と個別の設計図が、そういうのがあるといいかな

【教材の書式の修正について】

・モニタリングで行ってきた具体的事実を、書ける場所がないっていうところで、書式としてそれをやるのであれば、具体的に記入できる書式が欲しいなというのと

・上がいまで、下が例えばモニタリングの表で、見直すのも確かにいいのかなって。そうすると変化が上下で見えるとか

・初任なので、この書式をきちんと使っていけばその流れが追えるとか、その目標が達成できるっていうような書式設定をしたほうが初任のほうはいいかなっていう感じがあったりとか

・再アセスメントであれば、その再アセスメントをどこに書くのかっていうような、これを埋めれば再アセスメントを課してできます、というような書式設定にした方が、初任のほうはいいかなと思う

・サービス等利用計画をまた1枚1枚みんなに書くっていうセッションじゃなくて、そこはもう1枚共有の物があって、その具体的な方策だけで差異が分かるような様式に落とし方が、分かりやすいかなっていう気はしました

・書式の書きやすさとか大きさみたいなのは、ちょっともう一回考えてみた方がいいかなみたいな気はします

【プログラムの進め方について】

- ・進め方について、やっぱりもう少し明確に決まっていた方がいいなっていうのと
- ・一つ一つやる所のポイントみたいなものがないので、なかなかファシリにそれを伝えるのが難しいし、受講生にもそれを伝えるのが難しくなって
- ・やっぱりちゃんと伝えてやって、伝えてやってっていう繰り返しのプログラムを、もうちょつとちゃんと作っておかないと、どうも焦点が定まらない演習になりがちかなというふうに
- ・1個の演習の一人ひとりがきちっと終わってかないと、今回の演習3の1はほんとに成立しないかなっていう感じがあったので
- ・マニュアル的な進行表みたいなのが、結構あった方がいいかなっていうのと
- ・やっぱり指導者マニュアルみたいな物がかなり重要と思います。そこにどこまで書くかっていうか、表現するかっていうのが結構重要だろうなと

【情報共有の必要性について】

- ・やっぱ背景の部分をきちっと外に、表に出していかないとプランニングの方にも多分結びついていかないので、何がほんとのニーズなのかみたいなことで、共有する部分がかなり重要なんだろうなというふうに改めて認識したところです

このように、演習4日目・5日目としてプログラム内容の検討、教材の書式の修正、プログラムの進め方、情報共有の必要性について意見が出された。

5. 考察

以上の通り、相談支援従事者初任者研修のモデル研修内容について、実際にモデル研修を体験していただいた上で相談支援専門員等からその内容についての評価及び改善点についてのインタビュー調査を行ったが、その中で、それぞれの講義および演習に関して改善を図るべき講義および演習の内容、流れ、資料内容についての指摘がなされた。そのため、これらの指摘事項を踏まえた上で、相談支援従事者初任者研修としてふさわしいプログラムの提供が図られる必要があると考えられる。

1. エキスパートレビューに基づく考察

エキスパートレビューの結果に基づく初任者研修の振り返りおよび考察について、モデル研修の改善の視点から以下に箇条書きで示す。なお、昨年度同様、カリキュラムや内容に関する部分と企画運営に関する内容についてを分けて考察する。

〈カリキュラム・研修内容について〉

カリキュラムやシラバスそのものについての意見は少なく、それそのものは概ねモデル研修と同様の形で可能な印象を受けた。ただし、以下の3点については、時間を縮約して実施した結果、配慮が不十分となり混乱を招いた側面があった。実際の運用では特に留意しながら今後運営企画者に向けて伝達を行う必要があると考えられる。

- ① 本研究におけるカリキュラムの改訂は全面改定ではなく、従来研修の課題を解決する視点で行ったものである。企画運営者には、そのことを新旧対象の形で示したり、変更のポイントを丁寧に解説する必要があることがわかった。
- ② 講義については、より具体的な初任者研修での取り扱い内容を示し、それと本研修受講時には既習であることが望ましい内容、発展的内容を明確に整理して提示を行う。
- ③ 演習の入口で講義と連動するような導入講義を行う。

一方、演習の順序や題材の提示方法、演習の展開方法に関する意見がかなりみられた。その中で、主な箇所と改善策は以下のとおりである。

・今回、アセスメント票やニーズ整理票等について、様式 (= 演習ツール) の改訂を行った。様式を改訂した場合、エキスパートであっても「どう書けばよいのか」「どう使えばよいのか」咀嚼するまでに時間がかかる様子が見られた。

→ 様式の活用法については、丁寧に教示する必要性がある。

→ 様式については (実習で) 初任者自らが使いきれるかという意見もあり、今後さらに精査する必要がある。

・実習の地域資源の調査については、地域で基幹相談支援センター等がある程度受講生全体をフォローをする体制を構築しなければ、個別対応となり、相当の労力が必要になるのではないかとの意見も聞かれた。また、一度自分の地域のシートができてしまうと、それが出回り、コピー&ペーストされるのではないかとの危惧も示された。

→ 地域の中で協議会等を活用し、実習への対応を協議する旨を示唆する必要がある。

・対象者像あるいは獲得目標として、いわゆる「計画相談」の従事者が「計画相談」ができるようになることをゴールとするのか、あるいは目指すべき方向性としている地域を基盤とするソーシャルワークの実践に向けた基礎固めをゴールとするのか、この間には乖離があるのではないかとの指摘が多く見られた。これは、研修の課題というよりは、実務や制度上の

課題であり、今後検討が必要と考えられる。地域を基盤とするソーシャルワークを「計画相談」にも求める場合、制度のありようや業務のありかたを見直す必要があると考えられる。

- ・「基本相談」や「初期相談」「総合相談」など、様々な用語が使われており、定義が明確でない。それがソーシャルワークとしての相談支援に対するわかりづらさを産む可能性がある。用語の定義を厳密に行う必要がある。

- 定義については別途の研究が必要ではないか。

- ・面接技術や関係性の構築をどのように伝えるかについて課題がある。

- 時間的な制約もあり、初任者研修でのその重要性を伝えるのが限界である。他の機会で学べる場が必要である。

- ・アウトリーチも重要なソーシャルワーカーの役割であるが、演習でどのように伝えればよいか検討する必要がある。

- 演習で伝えることができるか検討するが、初任者研修では講義部分での取り扱いが限界ではないか。

- ・サービス等利用計画作成のプロセスに係るモニタリングとケアマネジメント本来のモニタリングとの間には乖離があり、どのように取り扱うか検討する必要がある。

- 基本的には、ケアマネジメントとしてのモニタリングを取り扱う。乖離のある現状や計画相談のありかたについては講義でフォローを行う。

- ・気づきを可視化させるための工夫が必要ではないか。

- 振り返り（チェック）シートを設ける必要がある。

- ・演習2は構造化されたグループスーパービジョンではなく構造化された事例検討と呼んだほうがよいのではないか。

- 討議により気づきを得て、次回までの行動変容を促すという行為はスーパービジョンであると考えられる。ただし、事例検討とスーパービジョンの違いが明確に示されていないこともあり、両語併記がよい可能性も検討する。

- ・演習3は、受講生の実践例から1事例を選定することとなっているが、実際には困難（適当な実践例がないグループが出ることも想定されるのではないか）

- この部分についてもモデル事例で展開する場合もあるとの示唆が必要である。

- ・演習講師（ファシリテーター）の質を一定担保する仕掛けが必要である。

- 講師用指導指針を作成する。

- 講師向け研修等の意図や方法を共有する場を設け、指針を活用する。

〈企画運営について〉

以下に、企画運営上の課題を整理する。大きくは、質の向上に伴う運営コストや演習講師に関する課題が多く挙げられた。ここでは、課題を挙げて整理する。

- ・本研修を効果的に実施するためには、定員規模を大規模にしすぎないように留意する必要がある（今回の被験者は、政令指定都市等大都市をもつ人口規模の大きい県の相談支援専門員や行政職員であり、研修定員が相当に多い県であることも背景にあると考えられる。）。
- ・講義と演習を連動させる流れなので、同一年度に両方受講することが必要（現行では、講義と演習を別の年度に受講することも可能）。
- ・演習2について6名分の実践例をひとりの演習講師が扱うのはかなりの労力となる。
- ・演習講師（ファシリテーター）の役割が従来に較べて重くなっており、人数の確保・講師育成が重要である。
- ・日数が増え、グループ構成人数が減ることで、演習講師（ファシリテーター）の（のべ）数が増加することが見込まれる。予算上の措置も必要であり、早めに都道府県に伝達する必要がある。
- ・OJTと連動させるためには、地域で人材育成を担う者（基幹相談支援センターの主任相談支援専門員等）が研修の企画運営に仕組みとして携わることができる必要がある。

2. 事前事後評価について

今回、研修効果について事前事後評価を実施した。結果としては、統計的に有意な効果は見られなかった。これは被験者属性の影響が大きいと考えられる。今回の被験者は研修の企画運営者（最も熟練した階層の相談支援専門員）であり、初任者研修の内容は既習のものであるばかりか、むしろそれを教育する立場の者であった。そのため教育的効果については、大きな変化が見られなかったと考えられる。それを傍証するものとして、レビューにおいての意見は、自らが教育を受けた視点ではなく、多くが自分が教育するとしたらであるとか企画運営するとしたら、という視点で語られていた。そのことから、今回の考察には、事前事後評価ではなく、事後インタビューを重視することが妥当であると考えられる。

3. まとめ

(1) カリキュラム・シラバスについて

基本的には、モデル研修時に使用したものでよいことがわかった。細かい流れや用語法等の微調整が必要である。

(2) 講義および演習の展開について

特に以下の点については、モデル研修からのブラッシュアップが必要である。

- ① モデル研修では、時間縮約のため、講義や教示を大幅に省略したが、実際には丁寧な説明が必要。
- ② 様式(演習ツール)については、枠組みはよいが、配置や用語法などの細かな修正が必要。また、振り返り(チェック)シートの導入が必要。
- ③ 演習1の場面設定については、より精査することが可能。
- ④ 演習2については、実習の実施体制についての示唆が伝達の際に必要。
- ⑤ ケアマネジメントプロセスとサービス等利用計画作成プロセスは完全に一致するとは言いがたいため、その調整が必要(サービス等利用計画については記入の視点についての精査、モニタリングについてはありかたをどう説明するかの整理が必要)。

また、カリキュラム改訂に際し、企画運営上の課題も想定され、そのことを企画運営者(各都道府県)に事前に提示することも必要であると考えられる。

（資料 2）現任研修（モデル研修）の検討と整理

資料 2-1 モデル研修実施経過

資料 2-2 モデル研修参加者における事前・事後評価

資料 2-3 モデル研修参加者・インタビュー調査結果・考察

資料 2-4 モデル研修の振り返りおよび考察

資料 2-1 モデル研修実施経過

研究協力者：富岡 貴生

平成 28 年相談支援従事者研修のプログラム開発と評価に関する研究を踏まえ、カリキュラム内容を一部変更し、以下のように実施した。

1) モデル研修実施経過

①研修カリキュラムの変更

1 日目の講義は、演習ガイダンスを 1 日目だけではなく、2 日目以降もガイダンスを行い、演習目的等を説明する時間を増やすことに変更した。次に、個別支援・チームアプローチ・コミュニティワークの講義は、地域を基盤としたソーシャルワークの全体の概要を説明した後に、個別相談支援・チームアプローチ・コミュニティワークの講義を行うことで、それぞれのつながりが意識できるよう変更した。

2 日目の個別相談支援の演習では、まず講義は、2 日目の講義を踏まえ、自己例を通してインテークやアセスメント、モニタリングの場面での意思決定支援の展開、講義後にセルフチェックが行いやすいようセルフチェックの内容も加えた説明へと変更した。次に、事例検討・GSV では、受講者 3 人を想定して事例検討を行うことになっていたが（3 日目に他の 3 人の事例検討を行う）、全事例の報告・検討ができたほうが 3 日目以降の演習につながりが持てることから、全事例の報告（検討含む）へと変更した。

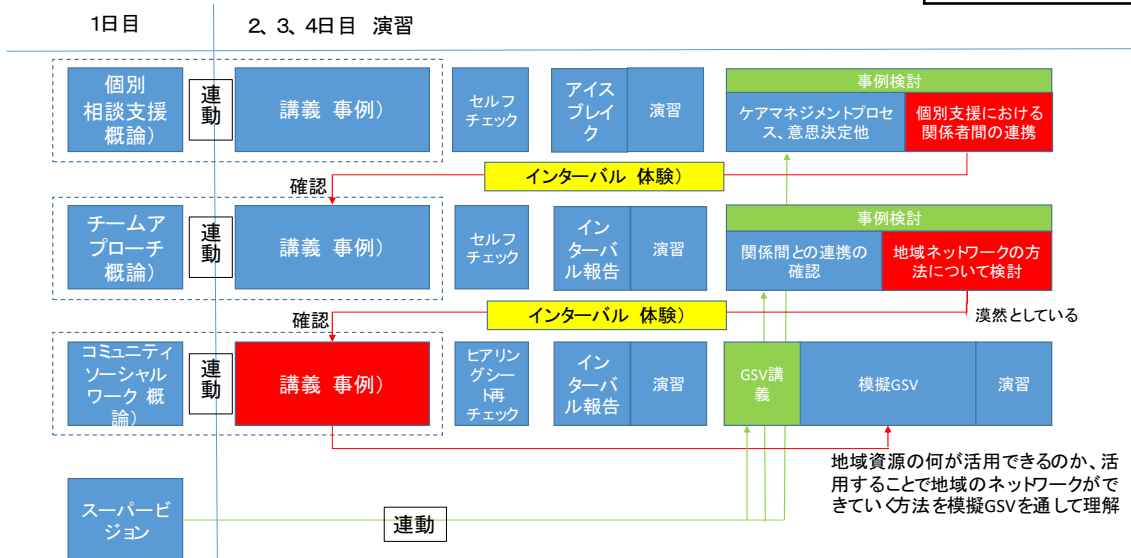
3 日目のチームアプローチの演習では、まず講義は、1 日目の講義を踏まえ、事例を通してチームアプローチの展開、講義後にセルフチェックが行いやすいようセルフチェックの内容も加えた説明へと変更した。次に、事例検討・GSV では、2 日目で検討した各参加者が持ち寄った事例の支援課題に対して、インターバルで行ってきたことを報告する場面を設けること、その中から 4 日目で行う事例検討・GSV の中で検討するのに適した事例を 2 事例選択することへと変更した。

4 日目のコミュニティワークの演習では、まず講義では、1 日目の講義を踏まえ、事例を通して自立支援協議会の機能や展開や講義後にセルフチェックが行いやすいようセルフチェックの内容も加えた説明へと変更した。次に、演習では、模擬 GSV と演習の順番を変更し、模擬 GSV を行った後に 3 日目で選択された 2 事例に対して地域資源の活用（インフォーマルサービス）を検討、その後にセルフチェックではなく主任相談支援専門員の業務を参考にしたヒアリングシートをチェックすることへと変更した。

主に変更したポイントについては資料 1（変更前）、2（変更後）を参照していただきたい。また、相談支援従事者現任研修カリキュラムの内容については資料 3 参照。

現任研修の構造

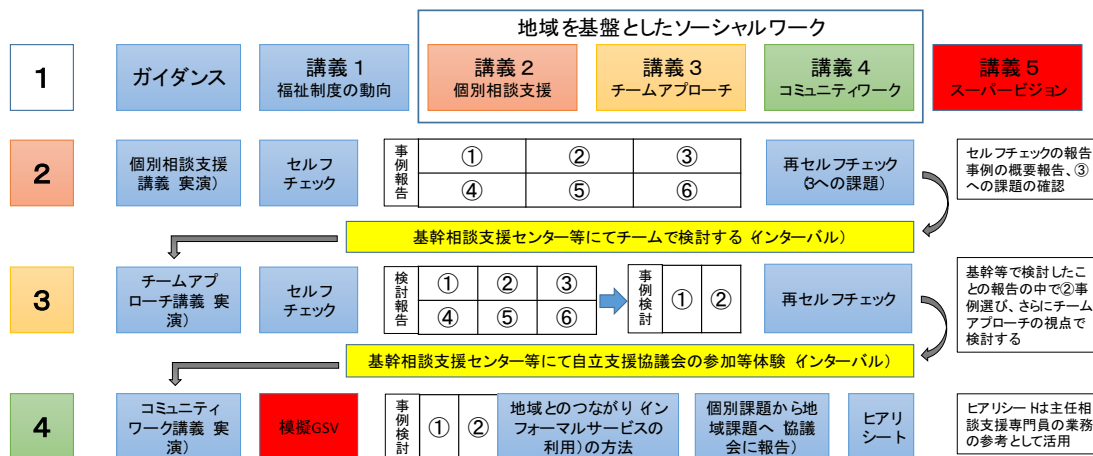
資料 1 (変更前)



資料 2 (変更後)

現任研修の構造

- 獲得目標
- ①相談支援の基本的業務を確実に実施できる。
 - ②チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を理解し、実践の中でチームアプローチが実践できる。
 - ③コミュニティワーク(地域とのつながりやインフォーマルの活用等)の理論と方法を理解し、実践できる。



相談支援従事者現任研修 たたき台

資料3

獲得目標	<p>① 相談支援の基本的業務を確実に実施できる。【意思決定(支援)を通して生きがいや自己肯定感を高める支援(ストレンクス)、相談支援の技術と能力の獲得】</p> <p>② チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を学び、実践においてチームアプローチが展開できる。【チームアプローチ(多職種連携)を実践するための技術と能力の獲得】</p> <p>③ コミュニティワーク(地域とのつながりやインフォーマルサービスの活用、社会資源の開発等)の理論と方法を理解し、実践できる。【地域に即した相談支援の実践力の獲得】</p> <p>④ ①～③について支援の妥当性を得るためグループスーパービジョンの理論と方法を学び、実際の事例を用いてグループスーパービジョンを体験することで、自らの支援について指導・助言を受ける重要性を理解する。</p>
------	--

研修の進め方	<p>事前課題(①②③)→講義→セルフチェック→演習→事例検討(スーパーバイズされる体験)</p> <p>* 演習は全員が司会を行う(ファシリテーションもしくは担当者会議における司会進行の技術獲得が目的)</p> <p>* 演習における標準グループ数は6名を想定している</p>
--------	---

事例提出	<p>事前課題①(2日目で使用)は、事例の概要、簡易なアセスメント、支援の経過が分かるよう時系列に記載する</p> <p>事前課題②(3日目で使用)は、事例の概要、家族関係、関係機関とのつながりが分かるようエコマップを用いて記載する(①の事例でなくても良い)</p> <p>事前課題③(4日目で使用)は、地域変革のためのヒアリングシートに記載する</p>
------	---

インターバル報告書作成	<p>①2日目終了後、基幹相談支援センター等でのインターバルの内容、感想等について報告書を作成</p> <p>②3日目終了後、基幹相談支援センター等でのインターバルの内容、感想等について報告書を作成</p>
-------------	---

	項目	0.5h	1.5h	3h	1h
講義1日間	1日目	ガイダンス	福祉制度の動向(地域生活支援事業含む)	<p>「地域を基盤としたソーシャルワーク(相談支援)」</p> <p>①個別相談支援(相談支援の過程における意思決定支援)</p> <p>②チームアプローチ(多職種連携/個別相談支援・地域支援におけるチームアプローチの展開)</p> <p>③コミュニティワーク(個別の支援から地域支援への展開)</p> <p>*主に概論の話が中心</p>	スーパービジョンの理論

	項目	講義(9:00~10:00)	セルフチェック	演習	事例検討・GSV(13:00~17:00)	
個別相談支援	2日目	①個別相談支援	1日目の講義を踏まえ、相談支援における①基本相談、②信頼関係の構築、③意思決定(本人主体とした支援)、④モニタリングの機能について支援場面で配慮できる *主に事例を踏まえた説明	セルフチェック 講義内容に留意し、自身の業務と照らし合わせて自己業務の確認を行う	演習 セルフチェックシートを使って、自分自身ができているところ、できていないところ、新たな気づき等を報告し、グループ内で共有する	事例検討 事前提出された事前課題①の支援経過に対して、①本人の意向、②本人の言葉の意味の吟味、支援者の都合が優先されていないか、④既存の社会資源だけが優先されていないか、⑤結論ありきで話がされていないか、について事例検討を行う。
	基幹相談支援センター等でサービス担当者会議に出席(チームアプローチを体験)するための一定期間(一ヵ月)のインターバル					

	項目	講義	セルフチェック	演習	事例検討	
地域を基盤としたソーシャルワーク(相談支援)	3日目	②チームアプローチ(多職種連携)	1日目の講義を踏まえ、①本人を取り巻く支援環境を関係者で支援するチームアプローチ、本人を取り巻く地域環境(社会資源)を地域で支えるチームアプローチの連携方法等について説明できる *主に事例を踏まえた説明	セルフチェック 講義内容に留意し、自身の業務と照らし合わせて自己業務の確認を行う	演習 ①インターバルの中で体験してきたことの実践報告 ②セルフチェックシートを使って、自分自身ができているところ、できていないところ、新たな気づき等を報告し、グループ内で共有する ③チームアプローチの取り組みの課題と支援の方法について協議する	事例検討 事前提出された事前課題②に対してグループで共有し、チームアプローチでの講義①②についての具体的な方法等について検討する
	基幹相談支援センター等で自立支援協議会の体制等を学び、協議会(専門部会含む)に参加するための一定期間(一ヵ月)のインターバル					

	項目	講義	セルフチェック	模擬GSV	演習	
コミュニティワーク	4日目	③コミュニティワーク	1日の講義を踏まえ、①利用者の個別のニーズ(個別課題)に対して何が地域課題なのかを理解する、②地域課題の解決に向けた地域支援ネットワーク(自立支援協議会含む)の方法を理解し、実践することの必要性を述べることができる *主に事例を踏まえた説明	セルフチェック 講義内容に留意し、自身の業務と照らし合わせて自己業務の確認を行う	演習 ①1日目の講義を踏まえ、生きがいや自己肯定感を高める支援の必要性を理解し、支援の確認・助言や支援者の抱え込みを軽減する等の効果があるGSVの理解を深める(講義) ②構造化された模擬GSV(ストレンクス視点によるGSV・他)を体験し、学習する(演習)	演習 ①インターバルの中で体験してきたことの実践報告 ②セルフチェックシートを使って、自分自身ができているところ、できていないところ、新たな気づき等を報告し、グループ内で共有する ③地域支援の取り組みの課題と支援の方法について協議する

②モデル研修実施報告（1日目）

この現任カリキュラムは、単独で完結するものではなく、初任者研修との連動性が必要である。そのため、資料3の相談支援従事者現任研修たたき台を踏まえ、初任者研修での講義や演習を意識しながら、二つの研修のつながりにも重きを置きながら時間を短縮して実施した。モデル研修を1日目は、研修の獲得目標、スケジュール等のオリエンテーションを行った後、地域を基盤としたソーシャルワークの概要、個別相談支援、チームアプローチ、コミュニティワーク、スーパービジョンの講義をそれぞれ短縮して実施した。福祉制度の動向については省略。

まず、地域を基盤としたソーシャルワークとして、①地域を基盤としたソーシャルワークの意味、②並行的ニーズの検討機能、③専門機関による地域連携機能、④住民主体の問題解決機能、⑤予防的地域課題解決機能、の概要説明を行った後、個別相談支援では、「相談支援における意志決定支援」として、①初任者研修の振り返り、②意思決定とは、③相談支援過程における意思決定支援、④意思決定支援の着眼点、について、相談支援のプロセスを交えながらの講義を行った。続いてチームアプローチ（多職種連携）では、①連携の定義と用語の整理、②連携・協同・チームの概念整理、③多職種連携の技術、④チームアプローチの展開、について、学術的に多職種連携の概念が整理されていない中で、様々な文献を用いながらの用語の整理を行いながらのチームアプローチの講義を行った。次に、コミュニティワークでは、①相談支援専門員の姿勢、②地域を基盤とするソーシャルワークにおける展開プロセス、③課題解決に必要な仕組み、について事例を交えながら講義を行った。最後にスーパービジョンでは、①スーパービジョンについて、②グループスーパービジョンの特徴、③グループスーパービジョンの進め方、④グループスーパービジョンワークシートの作成、⑤4日目の演習で行う模擬グループスーパービジョンの説明、についての講義を行った。

10月1日(1日目)

時間	項目	担当者	内容	備考
10:00	オリエンテーション	富岡	研修を行う上での説明	
10:30	講義：地域を基盤としたソ	島村先生	03資料 1日目を参照	
10:50	講義：個別相談支援	沖倉先生	03資料 1日目を参照	
11:35	休憩			
12:35	講義：チームアプローチ(多	鈴木先生	03資料 1日目を参照	
13:20	講義：コミュニティワーク	島村先生	03資料 1日目を参照	
14:05	地域を基盤としたソーシャル	島村先生		
14:25	スーパーバイズ	小澤先生	03資料 1日目を参照	
15:05	次回に向けてインフォーマ	富岡	事前課題の説明	事前課題は、1Gから1名に依頼
15:30	終了			

③モデル研修実施報告（2日目）

モデル研修2日目は、カリキュラムでは事前課題の報告と検討、インターバルに向けた課題整理を演習で行うが、ここでは事前課題を参加者の中から1名選び、1事例に対して報告と検討、課題の整理を行った。講義では1日目の個別相談支援の講義を踏まえ、自身の業務を振り返れるよう事例による説明を行った後、演習1でセルフチェックを各自で記載後セルフチェックの内容を通して自己の傾向や気づいた点などを共有し、参加者から助言をも

らう。演習 2 では、個別相談支援の視点を踏まえ、事例提供者による事例の報告と検討を行った。演習 3 では演習 2 で検討した結果を踏まえ、支援課題を共有し、インターバルに向けた課題整理と抽出をグループで行った。カリキュラムでは整理された課題を各自インターバル期間の中で実施し、演習 3 日目に報告することになっているが、ここでは時間的な兼ね合いもあり課題の整理のみ行う。

10月15日(2日目)

10:00	オリエンテーション	富岡	研修を行う上での説明	
10:15	講義:個別相談支援	富岡	03資料 2日目を参照	
11:00	演習1	藤川、富岡	03資料 2日目を参照	セルフチェックシート[1]
11:10	演習2	藤川、富岡	03資料 2日目を参照	事前課題を作成してくれた方のみ報告とする
12:00	休憩			
13:00	演習3	藤川、富岡	03資料 2日目を参照	通常は個人ワークだが、グループで支援の課題を整理する
14:30	次回に向けてインフォマー	富岡	インターバル期間に行うことの説明する(研修の流れの説明)	事例提出者のみ担当者会議を開催してきてもらうことは可能か インターバル報告書①を作成してもらうことは可能か
15:00	終了			

④モデル研修実施報告 (3日目)

モデル研修 3 日目は、カリキュラムではインターバル期間で実施した事例の報告と検討、さらに 4 日目に行う地域資源を活用した検討をするにあたってグループから 2 事例選出することになっているが、ここではインターバルが行えていないため、通常の支援をインターバル期間として捉え、2 日目に事例提出した方に 3 日目の資料提出を依頼、事例報告・検討を行うことで演習のつながりを持たせた。また、演習 1 は 2 日目とほぼ同じであるが、天候不良のため大幅に時間を短縮せざるを得ない状況が発生したため、セルフチェックの記入と共有は省いた。講義は 1 日目のチームアプローチを踏まえ、事例を通してチームアプローチや担当者会議の進め方等の確認を行った。演習 2 では、事例提供者が新たに作成したエコマップの報告をした後、演習 3 ではチームアプローチの視点を踏まえ、事例に対してチームアプローチの視点に立って支援の検討を行った。

10月22日(3日目)

10:00	オリエンテーション	富岡	研修を行う上での説明	
10:15	講義:チームアプローチ	富岡	03資料 3日目を参照	
11:00	演習1	藤川、富岡	03資料 3日目を参照	セルフチェックシート[2]
11:10	演習2	藤川、富岡	03資料 3日目を参照	1日目に事前課題を作成してくれた方のみ報告とする
12:00	休憩			
13:00	演習3	藤川、富岡	03資料 3日目を参照	事例提供者の事例に対してチームアプローチの視点で検討する
14:30	次回に向けてインフォマー	富岡	インターバル期間に行うことの説明する(研修の流れの説明)	ここでのインターバル期間の体験は省く
15:00	終了			

⑤モデル研修実施報告 (4日目)

モデル研修 4 日目は、天候不良のため大幅に時間を短縮せざるを得ない状況が発生したため、演習 3、演習 4 については省略した。講義は 1 日目の講義を踏まえ、事例を元に自立支援協議会の目的や運用を中心に行った。演習 1 では共通事例を元に、模擬的にストレン

グスモデルにおけるグループスーパービジョンを実施、ストレンクスにおける支援の効果や地域資源の活用方法などについての理解を図った。演習 2 では、模擬グループスーパービジョンを踏まえ、事例に対して地域資源の活用方法を検討する他、利用者が地域とつながることの必要性等について検討した。

10月29日(4日目)

10:00	オリエンテーション	富岡	研修を行う上での説明	
10:15	読義:コミュニティワーク	富岡	03資料 4日目を参照	
11:00	演習1	藤川、富岡	03資料 4日目を参照	共通事例
12:30	休憩			
13:30	演習2	藤川、富岡	03資料 4日目を参照	
14:00	演習3	藤川、富岡	03資料 4日目を参照	参加者の地域で行われている協議会の報告をする
14:20	演習4	藤川、富岡	03資料 4日目を参照	ヒアリングシートの記載、主任相談支援専門員の業務の確認等
15:00	終了			

資料 2-2 モデル研修参加者における事前・事後評価

分担研究者：大村 美保

1. 目的

相談支援専門員を中心に障害者相談支援事業に関する専門的な知見を有する者による、相談支援従事者現任研修のモデル研修の受講体験を行った。本研究は、研修内容の修正・確定に資することを目的に、研修の効果の測定及び研修内容の妥当性を検討してプログラム評価を行うため、研修受講の前後における自身の習熟度、及び研修内容についての評価・改善点を質問紙調査により把握し分析した。

2. 対象

埼玉県相談支援専門員協会及び神奈川県相談支援専門員協会に所属あるいは関与する相談支援専門員等延べ 58 名を対象とした。

3. 方法

現任研修のモデル研修（4日間）の参加者延べ 58 名に対して質問紙調査を行い、講習受講前と受講後それぞれの自身の習熟度に関する 5 段階での自己評価、及び講習・演習の内容資料に関する 4 段階での評価を依頼した。質問紙調査は、研修の日程に沿って 4 日間すべての日程で行い、それぞれの参加者に受講前 5 分間程度、及び受講後 10 分間程度を目途に記入を依頼した。調査票情報はデータセットに入力し、受講前と受講後の平均値で t 検定を行い、講義・演習の内容と資料については一元配置分散分析を行った。

4. 結果

(1) 受講前後での習熟度に関する自己評価の比較

1 日目講義「地域を基盤としたソーシャルワーク」の受講前の平均値は 3.43、受講後の平均値は 3.71 で、受講後は平均 0.28 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5% で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(13)=1.75, p=0.10>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

2 日目講義「個別相談支援」の受講前の平均値は 4.07、受講後の平均値は 4.00 で、受講後は平均 0.07 ポイント下降した。平均値の差について有意水準 5% で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(14)=0.99, p=0.34>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

3 日目講義「チームアプローチ」の受講前の平均値は 3.80、受講後の平均値は 3.69 で、受講後は平均 0.11 ポイント下降した。平均値の差について有意水準 5% で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(14)=0.58, p=0.56>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

4日目講義「コミュニティワーク」の受講前の平均値は 3.00、受講後の平均値は 3.36 で、受講後は平均 0.36 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(12)=2.33, p=0.03>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

(2) 各講義に対する評価

1日目講義「個別支援」の受講前の平均値は 3.92、受講後の平均値は 4.07 で、受講後は平均 0.16 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(12)=1.38, p=0.19>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は検出されなかった。講義「コミュニティワーク」の受講前の平均値は 3.21、受講後の平均値は 3.36 で、受講後は平均 0.15 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(13)=0.61, p=0.54>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は検出されなかった。講義「スーパービジョン」の受講前の平均値は 3.50、受講後の平均値は 3.86 で、受講後は平均 0.36 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(13)=2.11, p=0.05>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は検出されなかった。

2日目「個別相談支援」の内容について、評価得点の平均値はそれぞれ「演習 1」3.2、「演習 2」2.8、「演習 3」2.9 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差は検出されなかった ($F(2,37)=2.04, p=0.14>.01$)。2日目「個別相談支援」の資料等について、評価得点の平均値はそれぞれ「演習 1」3.3、「演習 2」2.8、「演習 3」2.8 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出され ($F(2,34)=5.62, p=0.007>.01$)、Bonferroni 法によりその後の検定を行ったところ、演習 1 と演習 2 の間で有意差が検出された ($p=0.006<.017$)。

3日目「チームアプローチ」の内容について、評価得点の平均値はそれぞれ「講義」3.6、「演習 1」2.9 であった。評価得点の平均に差があるか t 検定を行ったところ、有意差は検出されなかった ($p=0.017>.01$)。3日目「チームアプローチ」の資料について、評価得点の平均値はそれぞれ「講義」3.3、「演習 1」2.8 であった。評価得点の平均に差があるか t 検定を行ったところ、有意差は検出されなかった ($p=0.011>.01$)。

4日目「コミュニティワーク」の内容等について、評価得点の平均値はそれぞれ「講義」3.4、「演習 1」3.3、「演習 2」3.1 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった ($F(2,39)=1.57, p=0.22>.01$)。4日目「コミュニティワーク」の資料等について、評価得点の平均値はそれぞれ「講義」3.5、「演習 1」3.3、「演習 2」2.9 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった ($F(2,31)=3.43, p=0.05>.01$)。

5. 考察

(1) 受講前後での習熟度に関する自己評価の比較

受講前と受講後の習熟度の自己評価の比較では、1日目講義「地域を基盤としたソーシャルワーク」、2日目講義「個別相談支援」、3日目講義「チームアプローチ」、4日目講義「コミュニティワーク」の受講前の平均値は3.00～4.07、受講後の平均値は3.36～4.00と、受講前・受講後ともに習熟度の自己評価は高かった。また、受講前後で平均値に有意差は認められなかったが、1日目講義「地域を基盤としたソーシャルワーク」、2日目講義「個別相談支援」、4日目講義「コミュニティワーク」で平均0.07～0.36ポイント上昇し、3日目講義「チームアプローチ」のみ研修後の平均値が低下した。

今回のモデル研修は相談支援専門員を中心に障害者相談支援事業に関する専門的な知見を有する者を対象に行われたことを勘案すれば、1)参加者は初任者研修の内容に受講前段階から相当に習熟しており、2)各講義はそうした熟練した参加者であってもさらに内省と習熟を促すことのできる内容を伴っていたと理解できる。特に、3日目講義「チームアプローチ」では受講後の習熟度の自己評価が低下しており、3日目は他の日程に比べて講義内容の評価が高かった事実を踏まえると、講義を受講した参加者の内省の結果であると考えられる。

(2) 各講義・演習に対する評価

2日目～4日目の各講義・演習の内容に関する評価得点は平均値2.8～3.6、資料に関する評価得点は平均値2.8～3.5といずれも比較的高かった。一元配置分散分析の結果、各日の講義・演習の間では、2日目「個別相談支援」の資料「演習1」のみ平均値が有意に高かったほかは、評価得点の平均に有意差は認められなかったことから、モデル研修の内容・資料ともに全体をとおして概ね妥当であったと評価できる。

このうち、比較的高い評価得点であった講義・演習の内容は、3日目「チームアプローチ」のうち「講義」3.6、4日目「コミュニティワーク」のうち「講義」3.4であり、著しく低い評価得点をもつ講義・演習は見られなかった。本モデル研修において、現任研修のプログラムは現行プログラムに比べて大きく構成を変更したが、講義内容・資料ともに妥当であると参加者が共通して判断した結果であると考えられる。最終的なプログラムの確定にあたっては、初任者研修の内容や使用する様式との連動を図る必要がある。

講義名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください				
地域を基盤としたソーシャルワーク	島村先生	研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		(自由記述) 講義の内容について			(自由記述) 資料・教材・方法について		
個別相談支援	沖倉先生	研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		(自由記述) 講義の内容について			(自由記述) 資料・教材・方法について		
チームアプローチ	鈴木先生	研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		(自由記述) 講義の内容について			(自由記述) 資料・教材・方法について		

講義名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください				
コミュニティワーク	島村先生	研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		(自由記述) 講義の内容について			(自由記述) 資料・教材・方法について		
スーパービジョン	小澤先生	研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		(自由記述) 講義の内容について			(自由記述) 資料・教材・方法について		

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

講義・演習名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください				
2日目 個別相談支援		研修前	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる

演習1 個別相談支援・ 個人ワーク	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

演習2 グループワーク	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

演習3 個人ワーク	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

講義・演習名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください				
3日目 チームアプローチ		研修前	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術が まったくない	概念や考え方は知っているが 現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実 践することができる	自分で現場で実践でき、 他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に 使い、他の人にSVできる

講義	富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

演習 1	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

演習 2	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

演習 3	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	《資料・教材・方法について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい
		(自由にご記入ください)					(自由にご記入ください)				

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

講義・演習名	講師	研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに○を記入してください					
4日目 コミュニティワーク		研修前	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない	概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい	支援があれば現場で実践することができる	自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる	関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
講義	富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	
		(自由にご記入ください)					《資料・教材・方法について》
演習 1	富岡 藤川	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	
		(自由にご記入ください)					《資料・教材・方法について》
演習 2	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	
		(自由にご記入ください)					《資料・教材・方法について》

演習 3	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	
		(自由にご記入ください)					《資料・教材・方法について》
演習 4	藤川 富岡	《内容について》	よくない	あまりよくない	よい	たいへんよい	
		(自由にご記入ください)					《資料・教材・方法について》

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

資料 2-3 モデル研修参加者・インタビュー調査結果・考察

分担研究者：大村 美保

1. 目的

相談支援専門員を中心に障害者相談支援事業に関する専門的な知見を有する者に、相談支援従事者現任研修のモデル研修を受講体験してもらい、その内容についての評価及び改善点をインタビュー調査により聞き取り、研修内容の修正・確定に資することを目的とした。

2. 対象

埼玉県相談支援専門員協会及び神奈川県相談支援専門員協会に所属あるいは関与する相談支援専門員等 17 名を対象とした。

3. 方法

埼玉と神奈川の相談支援専門員協会ごとに体験したモデル研修の内容についてのフォーカスグループインタビューを実施した。その際、インタビューは研修の日程に沿って 4 日間に分けて行い、それぞれ研修終了後に実施した。なお、調査はそれぞれ 30 分をめぐりに実施した。その上で、インタビューデータを基に逐語録を作成し、それぞれの研修内容ごとの評価及び改善点について整理を行うこととした。

4. 結果

整理・分類を行い、以下の結果が得られた。

(1) 初任者研修との連動について

- 内容の連動性、ミクロ・メゾ・マクロでの視点の置き方の違いなど、現任研修と初任者研修の関係の明示が必要である。
- 初任者研修の振り返りに相当する内容（面接技術など）が必要ではないか。

(2) 個別相談支援

- 「基本相談」ではなく「相談支援」「一般的な相談」という用語がよいのではないか。もし「基本相談」を使うのであれば説明が必要である。
- ケアマネジメントプロセスの講義では、プロセスごとに意思決定支援を関連づけたほうがよい／講義で触れた技術について資料やポイントが示されるとよい／「診断」という用語は避け「見立て」などにすべき

- 「アセスメント」の用語の用法を明確にすべき

(3) コミュニティワーク

- 個別支援から地域支援への流れが意識できる内容とし、地域支援は主任研修の内容としてどうか。
- 協議会だけでなく、包括、児童、コミュニティソーシャルワーク、民生委員、インフォーマル資源等との連動を意識させるとよいのではないか。

(4) グループスーパービジョン

- アイディア出しとメンタリングのための一つの方法として示してどうか。

(5) 演習

- 演習様式の記入の宿題については義務化してどうか。
- 演習で使用する様式は通常業務で使用するものと異なるため、その理由や狙いを説明したほうがよいのではないか。
- 受講前にすべての様式への記入を課し、当該の演習が終わってから再度書くことで振り返りが行えるのではないか。
- 自由記述が多い様式は、受講者が記入できるかどうか。
- 様式はセルフチェックシートと関連させた様式としてどうか。
- エコマップの様式に工夫が必要ではないか。
- セルフチェックシートの活用方法について整理が必要ではないか。(①事前に日々の業務を振り返る、②受講後に日々の業務を振り返る、③個別事例の報告におけるチェック項目として用いる、など様々な用途が想定され、その目的に応じてインストラクションを変える必要がある)

(6) インターバル期間の課題

- 担当者会議までは必要ないのではないか
- 協議会の見学実施について周知を図るべきではないか

(7) 主任、委託、基幹との関係

- フィールドメンタリー、OJT、研修のファシリテーター、主任との関係の整理、主任の資質・研修の関係の整理が必要であり、現任研修の中でも可能な範囲で説明すべき。

5. 考察とまとめ

相談支援専門員を中心に障害者相談支援事業に関する専門的な知見を有する者に、相談支援従事者現任研修のモデル研修を受講体験してもらい、その内容についての評価及び改善点をインタビュー調査により聞き取り、それぞれの研修内容ごとの評価及び改善点について整理を行った。

その結果、概ね好評価であったが、参加者の多くは実際に研修を運営する立場であり、(1) 初任者研修との内容・様式の連動、(2) 個別相談支援における用語の定義と用法の統一、(3) コミュニティワークに関して理解到達水準の引き下げ、(4) グループスーパービジョンは方法論の一つとして提示、(5) 演習様式の変更・様式の提示方法や演習方法の工夫、(6) インターバルの期間設定と実施方法、(7) 主任、委託、基幹との関係の整理と提示、の大きく7点の論点が示された。本研修の狙いと目的に即し、これらの課題について検討を行い、研修プログラムの確定を行う必要がある。

資料 2-4 モデル研修の振り返りおよび考察

研究協力者：富岡 貴生

今回のインタビュー対象者は、エキスパートレビューということもあり、現任研修の受講者を対象としたものではない。そのため研修の内容についてはあまり触れられていないが、ファシリテーターとしての立場の意見が多かったことを踏まえ、2日目以降の見直すべき点や工夫等について述べる。

① 事前課題について

事前課題は、①事例の概要や支援過程をまとめたものを最初に作成、②3日目にエコマップを作成する、としていたが、ここでは最初から①②を事前に作成したほうが良いとの意見の他、地域資源の活用方法を検討する上でストレングスアセスメント表の追加、提出事例の選考には検討課題がしっかり提示できる事例、在宅事例、地域移行事例、現在進行形的事例、危機介入事例はふさわしくないなどの基準を設けることや作成しやすいよう参考例を示す必要性などの意見があった。これらは現行カリキュラムを進める上で必要なことから見直しを行うことを検討する必要がある。

②個別相談支援（2日目）

講義では、基本相談についての用語の整理が必要との意見があった。従来の基本相談として理解している人は良いが、サービス等利用計画の一部としての基本相談として理解している場合、事務的なものとして捉われてしまう恐れがある。そのため、ケアマネジメントプロセスとサービス等利用計画での基本相談の持つ意味をつなぎ合わせた説明が必要だと考える。次に、事例の説明の中で、①相談支援の各局面での意思決定支援の展開について、②重度障害者の意思決定支援の展開についての説明が必要との意見があった。しかし、意思決定支援ガイドラインではそこまでは触れられていない。インタークやアセスメントの局面での利用者の意志の確認や進め方等についての講義資料を作成するには、実際の支援を通して意思決定支援がどのように行われているのかを構造化する必要がある。

セルフチェックについては、講義後や演習の最後に行ったほうが良いとの意見の他、4日目の最後にまとめて行うなど様々な意見があった。そのため、セルフチェックを行う際のタイミングについてはカリキュラムの全体の流れを踏まえ再考したい。

事例報告・検討では、インターバル時に担当者会議を行うことを想定して課題の抽出を行うことを考えていたが、参加者の経験年数等によって支援レベルの差があり、アセスメントができていない段階の事例や支援課題が明確でありチームで共有する段階の事例など、支援課題の抽出にあたっては個人差が生じるとの意見があった。そのため、担当者会議に限定せず、個人の力量に合わせた課題を抽出し、インターバルを行ってくるという方法に変更したい。また、支援課題の抽出にあたってはグループで共有し、ファシリテーターが了解の上で実施して行くものとした。

② チームアプローチ（多職種連携）

講義では、チームが作られて行くプロセスの中で、相談支援専門員が力を入れる内容、箇所、苦労した点、多職種による価値観のズレに対しての調整方法など具体的なことをもっと知りたいとの意見があった。また、担当者会議の目的や進め方についても実践に当てはめた説明や、プランニングの説明も加えて欲しいとの意見があった。これらの意見から、チームアプローチの展開は教科書的には理解しているが、実際の支援の場面では事例によって展開が異なることから教科書通りに展開しないか、また意識せずにチームアプローチを行ってしまうなどの状況が実践場面に多くあることから、事例を通して具体的な展開を説明することでチームアプローチの生成過程を知り、参加者の理解度を深めたいということが考えられる。そのため、これらの意見をすべて組み入れることは難しいが、講義資料の事例に吹き出しを入れることで対応可能かと思われる。

事例報告・検討では、エコマップを追加して持ってくることになっていたが、最初から提示されていた方が検討しやすいとの意見が多かった。また、エコマップの中にチーム支援の目的が記載してあるとチームの役割も考えることが出るとの意見があったため、この点は書式等の工夫を検討したい。演習でチームアプローチについて検討するが、事例を中心に支援をどうするかといった検討に陥りやすい。そのため、チームの切り口にして事例を捉え、事例の理解や共有の程度、それぞれが役割を担えているかなどをファシリテーターが誘導することができないとチームアプローチの演習が機能しないことが伺えた。

インターバルでは、多くの受講生は自立支援協議会に参画しておらず、リアリティに欠けるため、基幹相談支援センター等を通して自分の市の協議会の状況を学ぶ他、専門部会等に参加することを通して実践に協議会を結びけいと考えていたが、自立支援協議会が機能している地域は良いが、機能していない地域についてはどうしたらよいかといった意見があった。地域の実情に応じてインターバルの内容を考えることは必要ではあるが、これらは運営側の課題であることから、相談支援専門員の負担の軽減を図るにも協議会が機能するよう体制を整えることが必要ではないかと思われる。

③ コミュニティワーク

講義では、事例の紹介がわかりやすかったが、さらに理解を深めるには参加者が地域の実情（地域資源や公的サービスなど）や自立支援協議会を理解していることが必要との意見があった。そのため、インターバルでは自立支援協議会の状況を把握してくることと、加えて地域資源マップなどを作成してくることも有効かと思われる。しかし、講義は協議会の話が中心であったが、相談支援専門員は協議会に参加している人が限られているため、実際の支援に結びつけることが難しいという意見や、自立支援協議会の活用は主任相談支援専門員レベルのことなのかもしれないとの意見もあり、コミュニティワークを身近な内容として捉えるには民生員と一緒に訪問した、近隣住民も巻き込んで見守り体制を作った、インフォ

一マルサービスを活用したなど、自分たちの支援の中に地域が繋がったという説明の方がコミュニティワークを実感しやすいのではないと思われる。

演習では、模擬グループスーパービジョンを行なうが、ストレングスモデルの説明や効果などの説明をした後に GSV を行った方が良いのではないかとの意見があった。また、演習時に地域資源の活用等を検討する際、ここでも受講生にとって自立支援協議会での内容が支援に結びつけて考えられているか疑問との意見があった。相談支援場面で身近にある地域資源に結びつけることが抜け落ちていることが多く、これらを飛び越しては自立支援協議会が遠いものと感じ、支援に生かされていない状況も考えられるため、現任者には、まずはグループワークの視点を通して地域資源に結びつけることがコミュニティワークの第一歩であることを理解することが必要と感じられるため、カリキュラムを再考していく必要がある

④その他

モデル研修を行っての反省点から見えたこととして、オリエンテーションでの説明が不十分なことから、その都度繰り返しの説明が必要であった。また 2 グループが違う理解のもとで演習が進められる場面もあったことから、研修統括やファシリテーターがカリキュラムを深く理解されない中で研修が行われると、グループごとに異なった理解のもとで演習が行われる可能性が示唆された。そのため、研修統括者やファシリテーターは、カリキュラムの目的や全体の流れ、獲得目標等を深く理解することが重要である。ファシリテーターの不足や育成が指摘されるが、カリキュラムの目的や理解とファシリテーションの技術的なことは別のことであり、カリキュラムの目的等が理解されていれば、ファシリノ技術的なことは統括や他のファシリがフォローすることは十分可能である。

厚生労働科学研究費補助金
障害者対策総合研究事業
障害者政策総合研究事業（身体・知的等障害分野）

相談支援従事者研修のプログラム開発と評価に関する研究
平成29年度 総括研究報告書

2018年3月

研究代表者 小澤 温